

YAMAHA PORTATONE PSR-5700

取扱説明書 [基礎編]

*[基礎編]ではPSR-5700の基本的な操作を説明します。
必ずこの冊子からお読みください。

YAMAHA PORTATONE PSR-5700

PSR-5700の取扱説明書について

PSR-5700の取扱説明書は、基礎編 (本書)と応用編 (別冊)の2冊構成になっています。

■ “基礎編” (本書)

基礎編では、PSR-5700の基本的な機能と操作をご説明いたします。必ず最初に目を通してください。

---基礎編の内容---

ボイスの選択
アカンパニメントの基本的な操作
スーパースタイルプレイ
パッドの使用
エフェクトについて
パネルレジストレーションの操作 など

■ “応用編” (別冊)

PSR-5700の基本的な操作に十分に慣れた後に、応用編では、より高度な演奏方法をご説明いたします。

---応用編の内容---

シーケンサー
カスタムアカンパニメントプログラマー
カスタムボイスエディット
フロッピーディスクの使用
MIDIの操作 など

ごあいさつ

この度はヤマハポータートーンPSR-5700をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。PSR-5700の様々な機能を最大限に活用するために、この取扱説明書(本書：基礎編と別冊：応用編)をよくお読みになってからご使用ください。なお、読み終わった後も、保証書とともに大切に保管して、分からないことや不都合が生じた場合に繰り返しご覧ください。

PSR-5700の特長

高音質を誇るAWM (Advanced Wave Memory)音源方式の100音色
微妙なタッチニュアンスを表現するタッチレスポンス
先進のアカンパニメント機能、インタラクティブアカンパニメント (36スタイル)
パートごとに録音・再生ができ、6曲までの曲作りが楽しめる8トラックシーケンサー
オリジナルのエディット (修正・編集)データ・演奏データが保存できるフロッピー
ディスクドライブ
スタイルごとに4種類のパネルセットアップをメモリー・呼び出しが可能なスーパースタイルプレイ
パネルの状態をメモリー・呼び出しが可能なパネルレジストレーション
マルチパッド (フレーズ・コード演奏などが録音/再生可能)・パーカッションパッド・
テンポパッドの3種類の演奏が楽しめる8パッド
ボイスに様々な効果を生み出すデジタルエフェクト
音楽表現の可能性を無限に広げるMIDI機能 (General MIDI level 1に対応)
市販のミュージックソフトが活用できる GM (General MIDI)、DOC (YAMAHA Disk Orchestra
Collection) 対応

目次 (基礎編)

ご使用になる前に	3
各部の名称	4
他の機器との接続について	6
デモ曲を聴いてみましょう	8
PSR-5700を演奏してみましょう	9
・オーケストレーション・ボイスの選択	9
・キーボードパーカッションを鳴らしましょう	12
音程のセッティング変更をしてみましょう (トランスポーズ/チューン, オクターブチェンジ)	14
ボイスをメモリーしてみましょう (ボイスレジストレーション)	15
アカンパニメント (伴奏) を使ってみましょう	16
・オートベースコード (ABC) アカンパニメントを使ってみましょう	17
(スタイルの選択・ABCモード・バリエーション・フィルなど)	
・インタラクティブアカンパニメントを使ってみましょう	22
・ディスクスタイルを使ってみましょう	23
スーパースタイルプレイを使ってみましょう	24
パッドを使ってみましょう	26
・マルチパッド	26
・パーカッションパッド	28
・テンポパッド	29
エフェクト (効果) をかけましょう	31
サステイン/ハーモニー (ハーモニータイプの選択)/ レフトホールド/ ピッチベンド/モジュレーション/リバーブ/エフェクト	
パネルの状態をメモリーしてみましょう (パネルレジストレーション)	33
DOC (Disk Orchestra Collection) ソフトを使ってみましょう	34
フィンガリングチャート	36
故障と誤りやすい現象	42
オプション商品のご紹介	42
索引	43

☆音楽を楽しむエチケット☆

これは電子機械工業会「音の
エチケット」キャンペーンの
シンボルマークです。

楽しい音楽も時と場所によってはたいへん気になるものです。隣近所への配慮を充分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。適度な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

・ヘッドフォンをご使用になる場合には、耳をあまり刺激しないよう適度な音量でお楽しみください。

ご使用になる前に

PSR-5700は精密機器です。本製品を末永くご使用いただくために、以下の注意を守り大切に扱ってください。

●設置場所について

次のような場所でご使用になりますと故障・変形・変色などの原因になりますのでご注意ください。

- ・窓際など直射日光の当たる場所
- ・暖房器具のそば、戸外、日中の車内など、極端に温度の高い場所
- ・極端に湿度の高い場所
- ・ホコリの多い場所
- ・振動の多い場所

●電源について

- ・本機は日本国内仕様です。電源は必ずAC100V (50Hzまたは60Hz)を使用してください。AC100V以外の電源は絶対に使用しないでください。
- ・ご使用にならない場合は必ず電源スイッチを切ってください。
- ・長時間ご使用にならない場合は、電源コードをコンセントから抜いておいてください。
- ・落雷などの危険のある場合は、電源コードをコンセントから抜いておいてください。
- ・消費電力の大きな機器と同じコンセントを使用したり、タコ足配線をする、音質が劣化するばかりでなく、誤動作や故障などの原因となりますのでご注意ください。

●外部機器との接続について

- ・再生するスピーカーやアンプの損傷を防ぐために、接続は本機と接続する機器、双方の電源を切った状態で行なってください。

●取り扱い・移動について

- ・スイッチや入出力端子類に無理な力を加えることは避けてください。
- ・コード類をはずす時は、必ずプラグ部分を持って抜いてください。
- ・移動するときは接続コードをはずしてから行なってください。
- ・落としたり、物をぶつけたり、上に座ったりしないでください。傷がついたり、故障の原因となることがあります。

●外装のお手入れについて

- ・パネルをお手入れの際は、柔らかい布で乾拭きしてください。
- ・汚れがひどい場合は、少し水で湿らせた布で拭いてください。
- ・アルコール・シンナー類は絶対に使用しないでください。
- ・ビニール製品を上に乗らないでください。貼り付いてしまうことがあります。

●他の電気機器への影響について

- ・本機はデジタル回路を多く使っているため、近くのテレビやラジオに雑音などが生じることがあります。この場合は十分に距離を離してお使いください。

●データの保存について

- ・シーケンサーなどにメモリーされたデータは、電源スイッチを切ってもバックアップされていますが、一週間以上電源を入れないとデータが失われてしまうことがあります。データを保存する場合は、必ずフロッピーディスクにセーブしてください。
- ・メモリーされたデータは、誤操作などのために壊れてしまうことも考えられます。大切なデータはフロッピーディスクに必ずバックアップ (スベア)を取っておいてください。また、フロッピーディスク自体も磁気などの影響でデータが壊れてしまうことがあります。重要なデータを安全に保存するため、お手数でも二重にバックアップを取ることをおすすめします。

●フロッピーディスクおよびディスクドライブ取扱いの注意

- ・フロッピーディスクを曲げたり圧力をかけないでください。また、シャッターを開けて内部に手を触れないようご注意ください。
- ・直射日光の当たる場所や、高温の場所に保管しないでください。
- ・フロッピーディスクは必ず3.5インチ2DDタイプをご指定の上お買い求めください。
- ・磁気を帯びた物のそばに置かないでください。ディスクのデータが消去されたり、破壊される恐れがあります。
- ・フロッピーディスクを取り出す場合は、イジェクトボタンをゆっくりと正確に押し込み、フロッピーが完全に出てから取り出してください。中途半端な状態で止ってしまった場合は、もう一度イジェクトボタンを押すか、再度フロッピーディスクを押し込みもう一度イジェクトボタンを押してください。中途半端な状態で無理に引き出すと、本体のディスクドライブおよび、フロッピーディスクを破損する恐れがあります。
- ・本体のディスクドライブにフロッピーディスク以外の物を入れないようご注意ください。ディスクドライブおよびフロッピーディスク破損の原因となります。
- ・本機を持ち運ぶ場合には、フロッピーディスクを取り出しておいてください。ディスクドライブおよび、フロッピーディスク破損の原因になります。

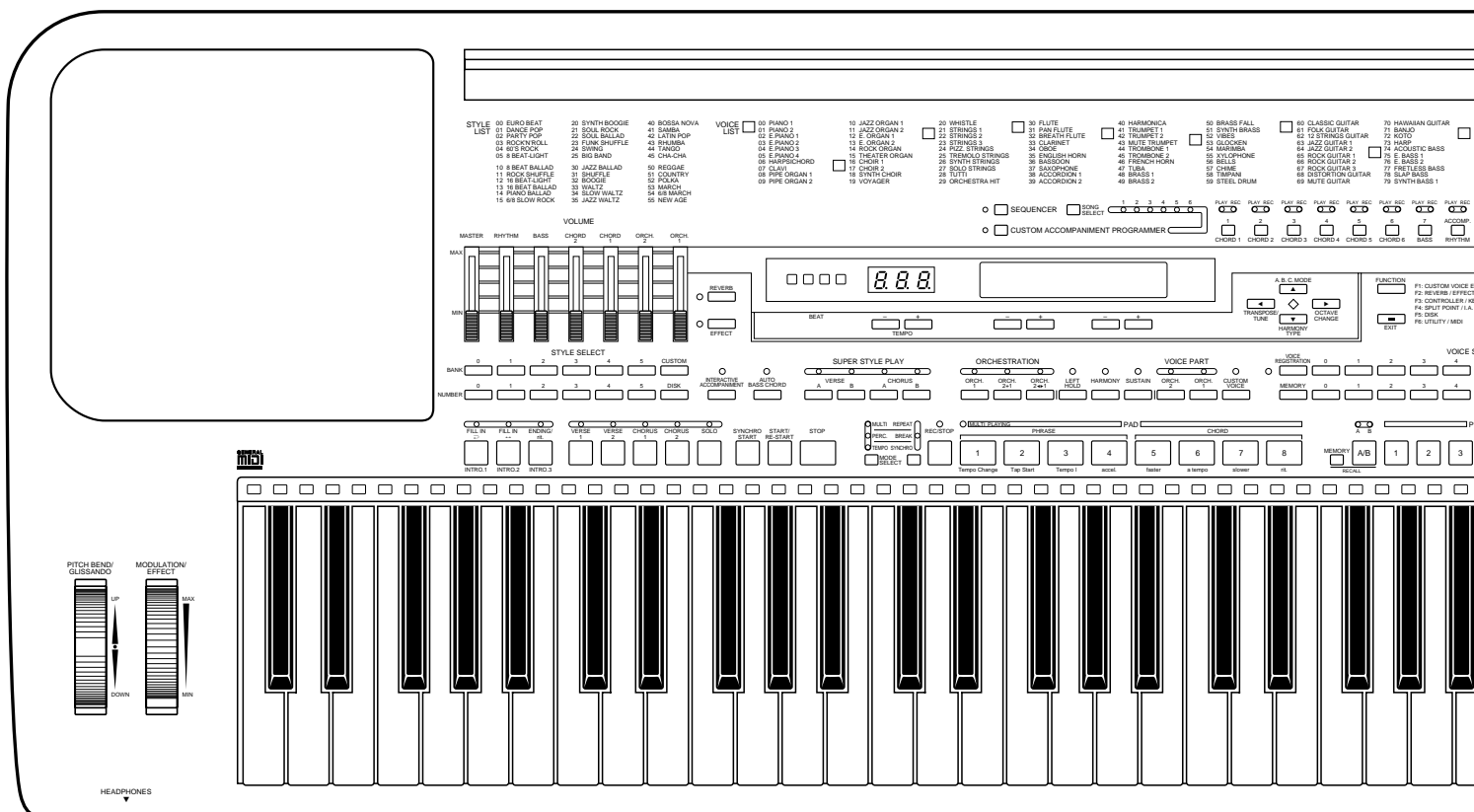
●改造について

- ・本機を改造したり、内部を開けたりすることは故障や事故につながりますので、絶対にしないでください。改造された後の保証はいたしかねます。

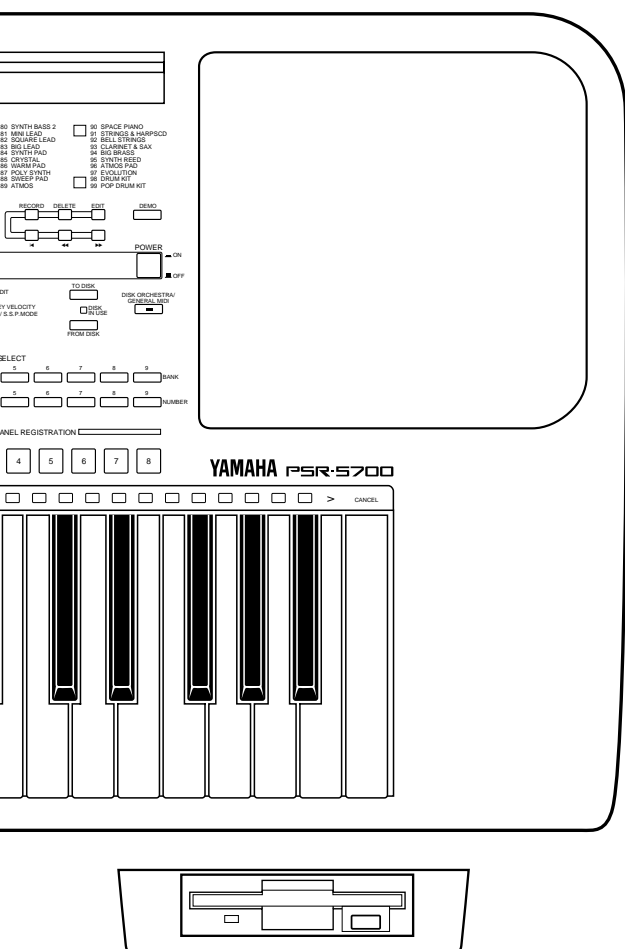
●保証書の手続きについて

- ・お買い求めの際、購入店で必ず保証書をお受け取りください。この際、販売店印がありませんと、保証期間中でもサービスが有償になることがあります。

各部の名称 (フロントパネル)



- ① POWER (パワースイッチ → P.8)
- ② DEMO (デモボタン → P.8)
- ③ VOICE SELECT (ボイスセレクトボタン)
 - ・ BANK (バンクボタン 0 ~ 9 → P.11)
 - ・ NUMBER (ナンバーボタン 0 ~ 9 → P.11)
 - ・ VOICE REGISTRATION (ボイスレジストレーションボタン → P.15)
 - ・ MEMORY (ボイスレジストレーションメモリーボタン → P.15)
- ④ BEAT (ビートインディケーター → P.20)
- ⑤ LEDディスプレイ → P.17
- ⑥ TEMPO [-][+] (テンポ [-][+]ボタン → P.17)
- ⑦ LCDディスプレイ → P.8, 11, 17
- ⑧ データエントリーボタン (→ P.8, 11, 17)
 - [-][+] (左)
 - [-][+] (右)
- ⑨ ▲▼ (ページボタン → 応用編 P.7, 19, 27)
 - ◀▶ (シフトボタン → 応用編 P.7, 19, 27)
 - ABC MODE (▲) (ABCモード → P.17)
 - HARMONY TYPE (▼) (ハーモニータイプ → P.31)
 - TRANPOSE/TUNE (◀) (トランスポーズ / チューン → P.14)
 - OCTAVE CHANGE (▶) (オクターブチェンジ → P.14)
- ⑩ FUNCTION (ファンクションボタン → 応用編 P.26)
- ⑪ EXIT (エグジットボタン → 応用編 P.27)
- ⑫ TO DISK (トゥーディスクボタン → 応用編 P.40)
- ⑬ DISK IN USE (ディスクインユースランプ → 応用編 P.43)
- ⑭ FROM DISK (フロムディスクボタン → 応用編 P.42)
- ⑮ DISK ORCHESTRA/GENERAL MIDI (ディスクオーケストラ / ゼネラルMIDIボタン → 応用編 P.47)
- ⑯ ORCHESTRATION (オーケストレーション → P.10)
 - ・ ORCH.1 (オーケストラ 1 ボタン)
 - ・ ORCH.2+1 (オーケストラ 2 + 1 ボタン)
 - ・ ORCH.2◀1 (オーケストラ 2 ◀ 1 ボタン)
- ⑰ LEFT HOLD (レフトホールドボタン → P.31)
- ⑱ HARMONY (ハーモニーボタン → P.31)
- ⑲ SUSTAIN (サステインボタン → P.31)
- ⑳ VOICE PART (ボイスパート → P.11)
 - ・ ORCH.2 (オーケストラ 2 ボタン)
 - ・ ORCH.1 (オーケストラ 1 ボタン)
- ㉑ CUSTOM VOICE (カスタムボイスボタン → 応用編 P.28)
- ㉒ VOLUME (ボリューム → P.8, 9, 11, 21)
 - ・ MASTER (マスターボリューム)
 - ・ RHYTHM (リズムボリューム)
 - ・ BASS (ベースボリューム)
 - ・ CHORD2 (コード 2 ボリューム)
 - ・ CHORD1 (コード 1 ボリューム)
 - ・ ORCH.2 (オーケストラ 2 ボリューム)
 - ・ ORCH.1 (オーケストラ 1 ボリューム)
- ㉓ REVERB (リバーブボタン → P.32)
- ㉔ EFFECT (エフェクトボタン → P.32)



②⑤ STYLE SELECT (スタイルセレクトボタン)

- BANK (バンクボタン 0 ~ 5 → P.17)
- NUMBER (ナンバーボタン 0 ~ 5 → P.17)
- CUSTOM (カスタムボタン → 応用編 P.18)
- DISK (ディスクボタン → P.23)

②⑥ INTERACTIVE ACCOMPANIMENT

(インタラクティブアカンパニメント[IA]ボタン → P.22)

②⑦ AUTO BASS CHORD (オートベースコードボタン → P.17)

②⑧ SUPER STYLE PLAY [VERSE A/B, CHORUS A/B]

(スーパースタイルプレイボタン → P.24)

②⑨ FILL IN/INTRO/ENDING

(フィルイン / イントロ / エンディングボタン → P.19, 21)

- FILL IN⇄/INTRO 1 (フィルイン / イントロ 1 ボタン)
- FILL IN↔/INTRO 2 (フィルイン / イントロ 2 ボタン)
- ENDING/rit./INTRO 3 (エンディング / リタルダンド / イントロ 3 ボタン)

③⑩ VERSE/CHORUS/SOLO

(バース / コーラス / ソロボタン → P.20)

- VERSE1 (バース 1 ボタン)
- VERSE2 (バース 2 ボタン)
- CHORUS1 (コーラス 1 ボタン)
- CHORUS2 (コーラス 2 ボタン)
- SOLO (ソロボタン)

③⑪ アカンパニメントコントロールボタン

- SYNCHRO START (シンクロスタートボタン → P.19)
- START/RE-START (スタート / リスタートボタン → P.19)
- STOP (ストップボタン → P.21)

③⑫ PAD MODE SELECT [MULTI/PERC./TEMPO, REPEAT/BREAK/SYNCHRO]

(パッドモードセレクトボタン [マルチ / パーカッション / テンポ、リピート / ブレーク / シンクロ] → P.26 ~ 30)

③⑬ PAD (パッドボタン)

- REC/STOP (レコーディング / ストップボタン → P.26 ~ 29)
- PHRASE/1/Tempo Change (フレーズ / 1 / テンポチェンジボタン → P.26 ~ 29)
- PHRASE/2/Tap Start (フレーズ / 2 / タップスタートボタン → P.26 ~ 29)
- PHRASE/3/tempo l (フレーズ / 3 / テンポブリモボタン → P.26 ~ 29)
- PHRASE/4/accel. (フレーズ / 4 / アツチェレランドボタン → P.26 ~ 29)
- CHORD/5/faster (コード / 5 / ファスターボタン → P.27 ~ 29)
- CHORD/6/atempo (コード / 6 / アテンポボタン → P.27 ~ 30)
- CHORD/7/slower (コード / 7 / スローワーボタン → P.27 ~ 30)
- CHORD/8/rit. (コード / 8 / リタルダンドボタン → P.27 ~ 30)

③⑭ PANEL REGISTRATION

(パネルレジストレーションボタン → P.33)

- MEMORY (メモリーボタン)
- A/B (A/Bボタン)
- 1 ~ 8 (1 ~ 8 ボタン)

③⑮ SEQUENCER (シーケンサーボタン → 応用編 P.3)

③⑯ CUSTOM ACCOMPANIMENT PROGRAMMER

(カスタムアカンパニメントプログラマーボタン → 応用編 P.16)

③⑰ SONG SELECT (ソングセレクトボタン → 応用編 P.3)

③⑱ シーケンサー / カスタムアカンパニメントトラックボタン

- 1 ~ 6/CHORD 1 ~ 6 (トラック1 ~ 6ボタン / コードトラック1 ~ 6ボタン → 応用編 P.4, 16)
- 7/BASS (トラック7ボタン / ベーストラックボタン → 応用編 P.4, 17)
- ACCOMP./RHYTHM (アカンパニメントトラックボタン / リズムトラックボタン → 応用編 P.4, 17)

③⑲ シーケンサー / カスタムアカンパニメントコントロールボタン

- RECORD (レコードボタン → 応用編 P.4, 17)
- DELETE (デリートボタン → 応用編 P.5, 16)
- EDIT (エディットボタン → 応用編 P.7)
- ⏮ (リセットボタン → 応用編 P.6)
- ⏪ (巻戻しボタン → 応用編 P.6)
- ⏩ (早送りボタン → 応用編 P.6)

④⑩ PITCH BEND/GLISSANDO

(ピッチベンド / グリッサンドホイール → P.32)

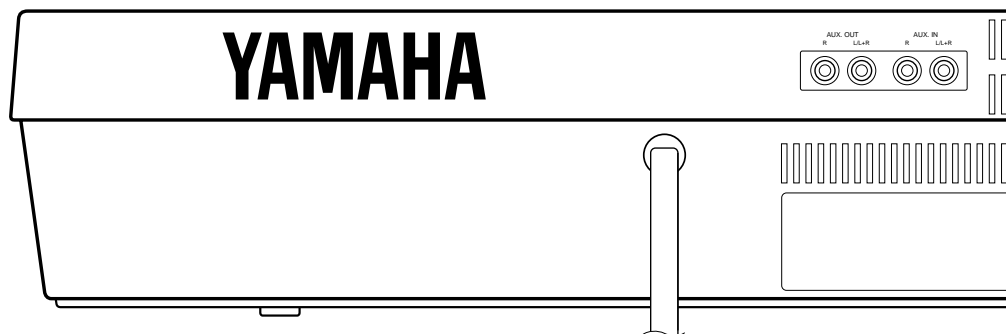
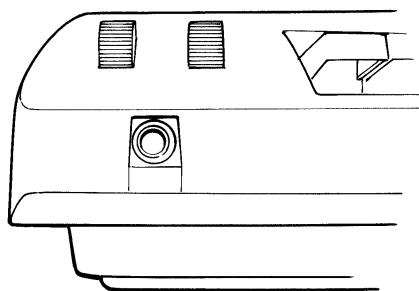
④⑪ MODULATION/EFFECT

(モジュレーション / エフェクトホイール → P.32)

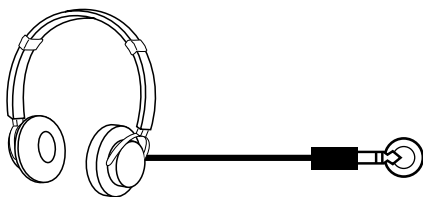
④⑫ ディスク挿入口 → P.23, 34

④⑬ イジェクトボタン → P.35

他の機器との接続について

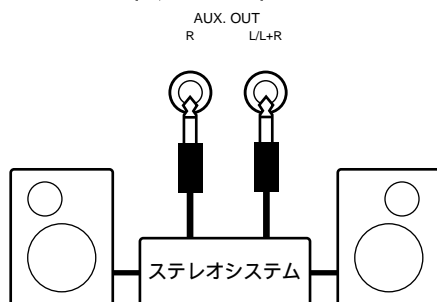


① HEADPHONES ジャック



個人練習や深夜に演奏する時、ヘッドフォンはこのジャックに接続してください。PSR-5700のスピーカーシステムは自動的にシャットアウト(OFF)されます。

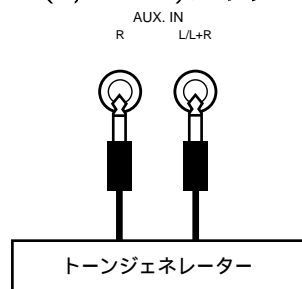
② AUX. OUT (R, L/L+R) ジャック



PSR-5700の音声信号を出力する端子です。キーボードアンプ、ステレオ、ミキシングコンソール、テープレコーダーなどの入力端子と接続すれば、本機の演奏を外部機器で鳴らすことができます。また、PSR-5700をモノラルサウンドシステムに接続する場合は、L/L+Rジャックにだけ接続してください。左右のチャンネル信号が混ぜ合わされモノラル信号で送られます。(フォーンプラグを使用してください)

(注) AUX. OUTジャックから送る信号を、直接または外部装置を経由してAUX. INジャックに戻すことは絶対にしないでください。発振を起こし、内部機器の損傷の原因になります。

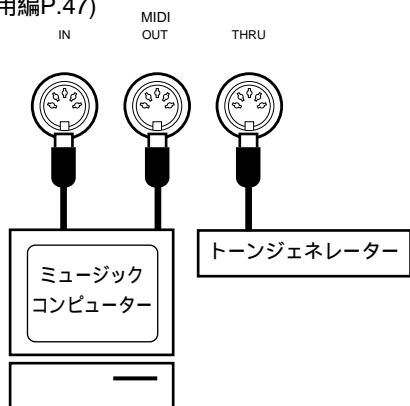
③ AUX. IN (R, L/L+R) ジャック



外部機器からの音声信号を入力する端子です。トーンジェネレーター、ドラムマシン、CDプレイヤーなどのオーディオ機器の出力端子と接続すれば、外部機器からの信号をPSR-5700の内蔵アンプとスピーカーシステムが再生します。(Phoneプラグを使用してください。)また、PSR-5700をモノラルサウンドシステムから接続する場合は、L/L+Rジャックにだけ接続してください。なお、外部機器からの信号に関してはPSR-5700のマスターボリュームは効きません。

④ MIDI IN, OUT, THRUコネクター

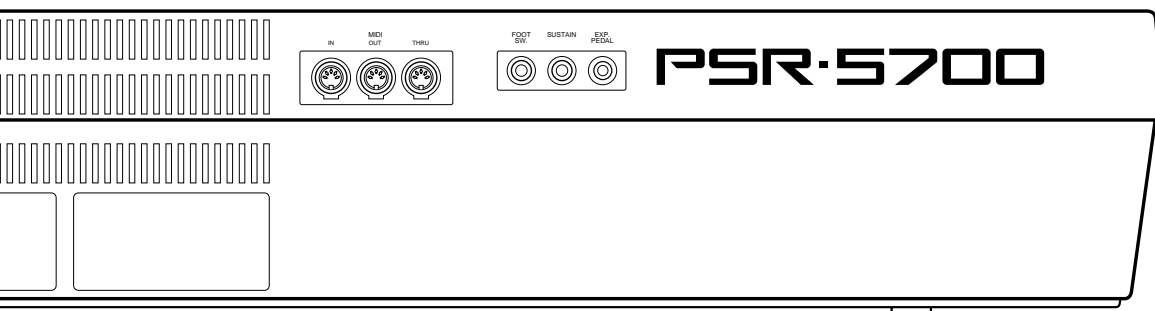
(→応用編P.47)



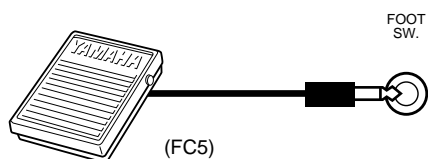
MIDI INコネクターは外部のMIDI機器からMIDI信号を受信します。MIDI THRUコネクターは、MIDI INから受信したデータをそのまま再送するので、いくつかのMIDI機器をつなげることができます。MIDI OUTコネクターは、PSR-5700からMIDI信号(PSR-5700で演奏した音符やキーを叩いた強さなど)を他の機器に送ります。

(注) MIDIケーブルはMIDI規格のものをお使いください。

(注) MIDIケーブルは15mが限度とされています。これ以上長いケーブルをご使用になりますと、誤動作などトラブルの原因になりますのでご注意ください。

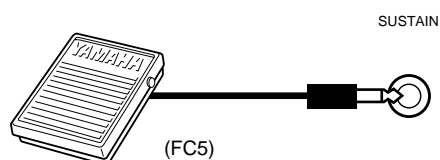


⑤ FOOT SW. ジャック (→応用編 P.35)



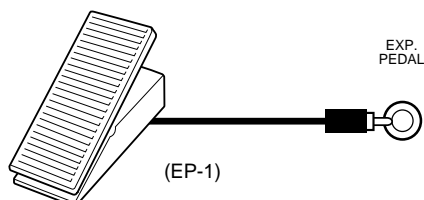
付属のフットスイッチ (YAMAHA FC5)を接続すれば、スイッチ操作でグライドのON/OFF、リズムのスタート/ストップ、フィルインのONなど、様々なコントロールが可能になります。

⑥ SUSTAIN ジャック (→応用編 P.36)

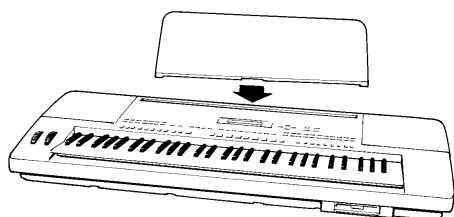


付属のフットスイッチ (YAMAHA FC5)を接続すれば、ピアノのダンパーペダルのような効果が得られます。踏み込むとサステインが得られ、足を離せばノーマルサウンドになります。

⑦ EXP. PEDAL ジャック (→応用編 P.36)



別売のYAMAHA EP-1エクスプレッションペダルをこのジャックに接続すると、ペダルによって足もとでオーケストラ1などのエクスプレッション (ボリューム)やエフェクトのコントロールを行うことができます。エクスプレッションをコントロールしている場合、ペダルを全く踏んでいない位置では発音されません。



譜面立ての取り付け方

楽譜を見ながら演奏するときは、譜面立てを利用すると便利です。譜面立ての下部分をPSR-5700のパネル上のスロットに差し込んでください。

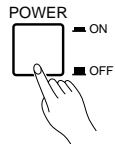
デモ曲を聴いてみましょう

PSR-5700は、4曲のデモンストレーション機能を持っています。本機に内蔵された豊富な音色やリズムバリエーションを自動演奏で楽しんでみましょう。

(注) PSR-5700のデモ曲は本体の他に外部機器を用いて作られていますので、このような曲をPSR-5700のシーケンサー機能で作ることはできません。

1. 電源を入れます。

電源コードを家庭用コンセント (AC100V) に接続し、[POWER]スイッチを押してONにしてください。



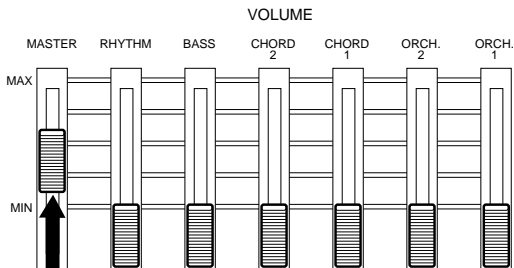
*** YAMAHA PORTATONE ***
*** PSR-5700 ***



>00:Piano 1
00: Eurobeat 21:Strings1

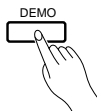
2. ボリュームレベルをセットします。

デモ曲の音量調整は[MASTER]ボリュームで行います。[MASTER]ボリュームをMAXの1 / 2 くらいまで動かしてください。



3. [DEMO]ボタンを押してください。

デモ曲はボタンを押すとLCDディスプレイに“SONG=ALL”と表示され、ボタンを離すと演奏がスタートします。もう一度[DEMO]ボタンを押すか、[STOP]ボタンを押すまで内蔵された4曲が繰り返し演奏されます。

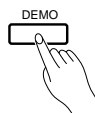


(注) 4つの内蔵デモ曲のうち1曲だけを再生することもできます。[DEMO]ボタンを押しながら、ディスプレイ左下のデータエントリーボタン[-][+]を使って“SONG=1”“SONG=2”“SONG=3”“SONG=4”を選択して[DEMO]ボタンを離してください。選択されたデモ曲が演奏され、曲が終わると自動的にストップします。

PSR-5700 DEMONSTRATION
Song=1 ClubRock



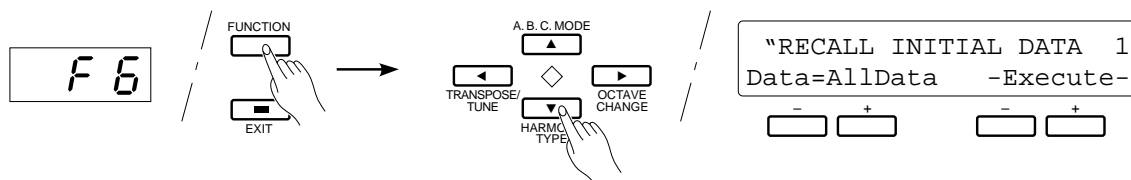
PSR-5700 DEMONSTRATION
Playing 1:ClubRock



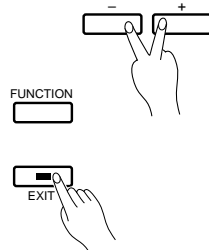
PSR-5700を演奏してみましょう

(注) 演奏する前に、PSR-5700を工場出荷時の状態に戻すために、イニシャライズ(初期化)することをお勧めします。

[FUNCTION]ボタンを数回押してLEDディスプレイに“F6(UTILITY)”を呼び出してください。そして、LCDディスプレイに下記の表示が現われるまでページボタン[▼]を押してください。



"RECALL INITIAL DATA 1
Data=AllData Busy!"

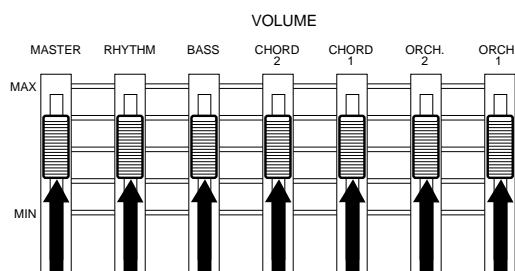


次にディスプレイ右下のデータエントリーボタン[-][+]を同時に押してください。イニシャライズが実行されます。イニシャライズが行われている間“Busy!”の表示が現われ、終了すると“Completed”が現われます。

最後に[EXIT]ボタンを押すと通常の演奏状態に戻ります。

オーケストレーション・ボイスの選択

1. ボリュームをセットします。

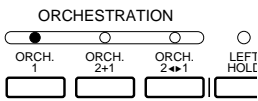


7個のボリュームをすべて“MAX”の3 / 4 程度まで動かします。左端の[MAS-TER]ボリュームでは全体の音量をコントロールすることができます。

(注) [MASTER]ボリュームを除く各ボリュームはMINの位置にすると発音されなくなります。

PSR-5700を演奏してみましょう

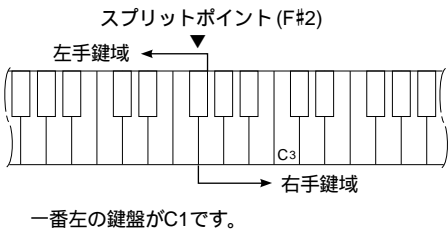
2. オーケストレーション (ボイスの構成)を選択しましょう。



PSR-5700にはボイス (オーケストラ 1・2)の構成パターンが3通りあります。

- [ORCH.1] → シングルボイス...オーケストラ1に選択したボイスでキーボード全体を使って演奏できます。
- [ORCH.2+1] → デュアルボイス...選択した2つのボイスを同時に、キーボード全体を使って演奏できます。
- [ORCH.2<=>1] → スプリットボイス...スプリットポイントを境に、オーケストラ2のボイスをキーボードの左側で、オーケストラ1のボイスをキーボードの右側で演奏できます。(この時オーケストラ2に選択されたボイスは自動的に1オクターブ上にトランスポーズされます。)

以上の中からオーケストレーションを選択し、ボタンを押してください。対応するインジケーターが点灯します。



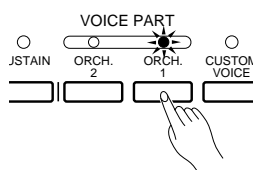
- (注) PSR-5700の最大同時発音数は38音ですが、デュアルボイスモードでは1回の押鍵に対して2つのボイスが同時に発音されるため、最大同時発音数は減少することになります。
- (注) 工場出荷時のスプリットポイントはF#2です。この状態で[ORCH.2<=>1]が選択されると、オーケストラ2ボイスがF#2を含んだ左側すべてのキーで演奏され、オーケストラ1ボイスがF#2の右側のすべてのキーで演奏されることを意味しています。スプリットポイントの変更は応用編P.38[F4]の「1. スプリットポイント」の項を参照してください。
- (注) デュアルボイスモード時にオーケストラ1、2に同一の音色が選ばれた場合、本来の音色のニュアンスと異なる場合があります。

3. ボイス (オーケストラ1・オーケストラ2)を選択しましょう。

PSR-5700には100種類のボイスがあります。

ボイスリスト

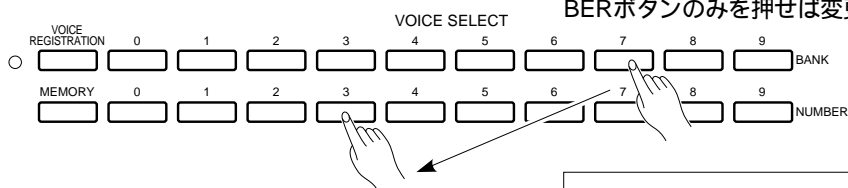
BANK 0	BANK 1	BANK 2	BANK 3	BANK 4
00 PIANO 1	10 JAZZ ORGAN 1	20 WHISTLE	30 FLUTE	40 HARMONICA
01 PIANO 2	11 JAZZ ORGAN 2	21 STRINGS 1	31 PAN FLUTE	41 TRUMPET 1
02 E.PIANO 1	12 E.ORGAN 1	22 STRINGS 2	32 BREATH FLUTE	42 TRUMPET 2
03 E.PIANO 2	13 E.ORGAN 2	23 STRINGS 3	33 CLARINET	43 MUTE TRUMPET
04 E.PIANO 3	14 ROCK ORGAN	24 PIZZ. STRINGS	34 OBOE	44 TROMBONE 1
05 E.PIANO 4	15 THEATER ORGAN	25 TREMOLO STRINGS	35 ENGLISH HORN	45 TROMBONE 2
06 HARPSICHORD	16 CHOIR 1	26 SYNTH STRINGS	36 BASSOON	46 FRENCH HORN
07 CLAVI	17 CHOIR 2	27 SOLO STRINGS	37 SAXOPHONE	47 TUBA
08 PIPE ORGAN 1	18 SYNTH CHOIR	28 TUTTI	38 ACCORDION 1	48 BRASS 1
09 PIPE ORGAN 2	19 VOYAGER	29 ORCHESTRA HIT	39 ACCORDION 2	49 BRASS 2
BANK 5	BANK 6	BANK 7	BANK 8	BANK 9
50 BRASS FALL	60 CLASSIC GUITAR	70 HAWAIIAN GUITAR	80 SYNTH BASS 2	90 SPACE PIANO
51 SYNTH BRASS	61 FOLK GUITAR	71 BANJO	81 MINI LEAD	91 STRINGS & HARPSCD
52 VIBES	62 12 STRING GUITAR	72 KOTO	82 SQUARE LEAD	92 BELL STRINGS
53 GLOCKEN	63 JAZZ GUITAR 1	73 HARP	83 BIG LEAD	93 CLARINET & SAX
54 MARIMBA	64 JAZZ GUITAR 2	74 ACOUSTIC BASS	84 SYNTH PAD	94 BIG BRASS
55 XYLOPHONE	65 ROCK GUITAR 1	75 E.BASS 1	85 CRYSTAL	95 SYNTH LEAD
56 BELLS	66 ROCK GUITAR 2	76 E.BASS 2	86 WARM PAD	96 ATMOS PAD
57 CHIME	67 ROCK GUITAR 3	77 FRETLESS BASS	87 POLY SYNTH	97 EVOLUTION
58 TIMPANI	68 DISTORTION GUITAR	78 SLAP BASS	88 SWEEP PAD	98 DRUM KIT
59 STEEL DRUM	69 MUTE GUITAR	79 SYNTH BASS 1	89 ATMOS	99 POP DRUM KIT



>00:Piano 1
00:Eurobeat 21:Strings1

オーケストラ1を選択する場合はVOICE PARTボタン[ORCH.1]を押してください。インディケーターが点灯し、ディスプレイの「>」がORCH.1ボイスの前に移動します。

次に[VOICE SELECT]ボタンを押して、ボイスナンバーを選択してください。上段BANKボタンを押してボイスナンバーの10の位を、下段NUMBERボタンを押して1の位を選択します。例えば73 (HARP)を選択するには、BANK[7]ボタンとNUMBER[3]ボタンを押します。BANKボタンとNUMBERボタンは、BANKボタンから先に押してください。NUMBERボタンが押された瞬間にボイスが切り替わります。また、同じバンク内のボイスの変更はNUMBERボタンのみを押せば変更できます。



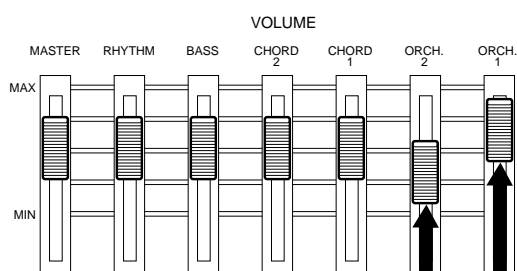
>73:Harp
00:Eurobeat 21:Strings1

(注) BANKボタンのみを押して、しばらく(約3秒)何の操作もしないと、変更されたバンクナンバーはキャンセルされ、表示はもとの状態に戻ります。

オーケストラ2を選択する場合はVOICE PARTボタン[ORCH.2]を押すとインディケーターが点灯し、ディスプレイの「>」がオーケストラ2ボイスの前に移動しますので、[ORCH.1]と同様に選択してください。

オーケストラ1またはオーケストラ2ボイスのナンバーは、LCDディスプレイの右下にあるデータエントリーボタン[-]/[+]を使用すれば、ナンバーを増減させることができます。この場合一度押せば1だけ増減、押し続けければ連続で増減します。

4. ボリュームを調整して演奏してみましょう。



デュアルまたはスプリットモードでは[ORCH.1][ORCH.2]ボリュームを使用して、2音色のバランスを調整してください。また、[MASTER]ボリュームでは全体の音量を調整します。

それでは演奏してみましょう。

(注) ボイスによっては、鍵盤上のいくつかのポイントで音色に差が生じます。これはマルチサンプリングによるためであり、本体の異常ではありません。

(注) ボイスナンバー90～97は2つの音色が組み合わせられたものです。よってこれらのボイスは、1回の押鍵に対して2つの音色が同時に発音されるため、PSR-5700の最大同時発音数は減少することになります。

PSR-5700を演奏してみよう

キーボードパーカッションを鳴らしましょう

>98:Drum Kit
00:Eurobeat 99:Pop.Drum

オーケストラ1,2にボイスナンバー98 DRUM KITまたは99 POP DRUM KITを選択すると、鍵盤を利用してドラムス、パーカッションなどが演奏できます。なお、鍵盤の上のパネルには98 DRUM KITのイラストがプリントされています。

(注) トランスポーズ・チューン機能(P.14参照)やエフェクト(サステイン・ハーモニー・レフトホールド・モジュレーションなど)はキーボードパーカッションには効きません。
(注) ピッチベンドホイールはキーボードパーカッションにも効きますが、一部の音に関してはあまり効果が得られません。

キーボードパーカッションリスト 98 DRUM KIT [99 POP DRUM KIT]

キー	イラスト/ディスプレイ/ネーム	キー	イラスト/ディスプレイ/ネーム
C1	Applause 拍手	F#3	Conga1Lo コンガ1 (低)
D♭1	TrianglC トライアングル(クローズ)	G3	RideCym1 ライドシンバル1
D1	WhistlLo ホイッスル(低)	A♭3	Conga1Hi コンガ1 (高)
E♭1	TrianglO トライアングル(オープン)	A3	RideCup1 ライドカップ1
E1	WhistlHi ホイッスル(高)	B♭3	Conga1Mu コンガ1 (ミュート)
F1	Kick1 キック1	B3	CrashCy1 クラッシュシンバル1
F#1	Kick2 キック2	C4	CrashCy2 クラッシュシンバル2
G1	Kick3 キック3	D♭4	BongoLow ボンゴ(低)
A♭1	Kick4 キック4	D4	SplashCy スプラッシュシンバル
A1	Tom1Bass タム1 (ベース)	E♭4	BongoHi ボンゴ(高)
B♭1	RimShot1 リムショット1	E4	MarchCym マーチシンバル
B1	Tom1Low タム1 (低)	F4	Surdo スルドー
C2	Tom1Mid タム1 (中)	F#4	Cabasa カバサ
D♭2	Snare 1 スネア1	G4	Tom2Low タム2 (低)
D2	Tom1Hi タム1 (高)	A♭4	Vibrasla ビブラスラップ
E♭2	Snare2 スネア2	A4	Tom2Mid タム2 (中)
E2	Snare3 スネア3	B♭4	Claves クラベス
F2	Snare4 スネア4	B4	Tom2Hi タム2 (高)
F#2	Snare5 スネア5	C5	GuirLong ギロ (ロング)
G2	Snare6 スネア6	D♭5	CuicaLow クイーカ (低)
A♭2	BrshHit1 スネアブラシヒット1	D5	GuirShor ギロ (ショート)
A2	SnarRoll スネアロール	E♭5	CuicaHi クイーカ (高)
B♭2	Brush スネアブラシ	E5	Tambouri タンバリン
B2	P.HiHat1 ベダルハイハット1	F5	CowbelLo カウベル(低)
C3	C.HiHat1 クローズドハイハット1	F#5	AgogoLow アゴゴ(低)
D♭3	TimbaleL ティンバレス (低)	G5	Castanet カスタネット
D3	O.HiHat1 オープンハイハット1	A♭5	AgogoHi アゴゴ(高)
E♭3	TimbaleH ティンバレス (高)	A5	FingSnap フィンガースナップ
E3	C.HiHat2 クローズドハイハット2	B♭5	CrosStic クロススティック
F3	O.HiHat2 オープンハイハット2	—	—

[99: Pop Drum Kit]

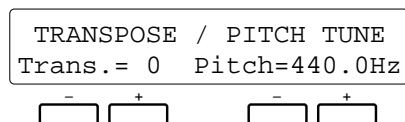
キー	ディスプレイ / ネーム	キー	ディスプレイ / ネーム
C1	HandClap ハンドクラップ	F#3	Conga2Lo コンガ2 (低)
D♭1	TrianglC トライアングル(クローズ)	G3	RideCym2 ライドシンバル2
D1	WhistlLo ホイッスル(低)	A♭3	Conga2Hi コンガ2 (高)
E♭1	TrianglO トライアングル(オープン)	A3	RideCup2 ライドカップ2
E1	WhistlHi ホイッスル(高)	B♭3	Conga2Mu コンガ2 (ミュート)
F1	Kick5 キック5	B3	CrashCy1 クラッシュシンバル1
F#1	Kick6 キック6	C4	CrashCy2 クラッシュシンバル2
G1	Kick7 キック7	D♭4	BongoLow ボンゴ(低)
A♭1	Kick8 キック8	D4	ChinesCy チャイニーズシンバル
A1	Tom1Bass タム1 (ベース)	E♭4	BongoHi ボンゴ(高)
B♭1	RimShot2 リムショット2	E4	ReversCy リバースシンバル
B1	Tom1Low タム1 (低)	F4	E.TomBas エレクトロニックタム (ベース)
C2	Tom1Mid タム1 (中)	F#4	Maracas マラカス
D♭2	Snare7 スネア7	G4	E.TomLow エレクトロニックタム (低)
D2	Tom1Hi タム1 (高)	A♭4	Vibrasla ビブラスラップ
E♭2	Snare8 スネア8	A4	E.TomMid エレクトロニックタム (中)
E2	Snare9 スネア9	B♭4	WoodBlk ウッドブロック
F2	Snare3 スネア3	B4	E.TomHi エレクトロニックタム (高)
F#2	Snare10 スネア10	C5	GuirLong ギロ (ロング)
G2	Snare11 スネア11	D♭5	ScratLow スクラッチノイズ(低)
A♭2	BrshHit2 スネアブラシヒット2	D5	GuirShor ギロ (ショート)
A2	SnarRoll スネアロール	E♭5	ScratHi スクラッチノイズ(高)
B♭2	Brush スネアブラシ	E5	RunWater 水の流れる音
B2	P.HiHat2 ペダルハイハット2	F5	CowbelHi カウベル(高)
C3	C.HiHat2 クローズドハイハット2	F#5	AgogoLow アゴゴ(低)
D♭3	TimbaleL ティンバレス (低)	G5	DropCoin コインがコップに落ちる音
D3	O.HiHat2 オープンハイハット2	A♭5	AgogoHi アゴゴ(高)
E♭3	TimbaleH ティンバレス (高)	A5	FingSnap フィンガースナップ
E3	C.HiHat3 クローズドハイハット3	B♭5	CrosStic クロススティック
F3	O.HiHat3 オープンハイハット3	—	—

音程のセッティング変更をしてみましょう

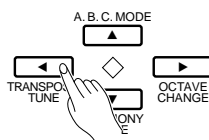
(トランスポーズ／チューン, オクターブチェンジ)

通常の演奏状態から、ディスプレイ右のシフトボタン◀▶を押すことによって、トランスポーズ／チューン(◀ボタン)、オクターブチェンジ(▶ボタン)のモードに入ることができます。それぞれのモードに入って簡単な音程のセッティング変更をしてみましょう。

●トランスポーズ／チューン



ディスプレイ右のシフトボタン◀を押すと、トランスポーズ／チューンの変更モードに入ります。

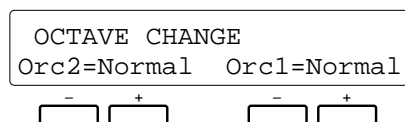


ディスプレイ左下のデータエントリーボタン[-][+]で、トランスポーズ(移調)を行います。±6(単位：半音)の範囲で設定してください。

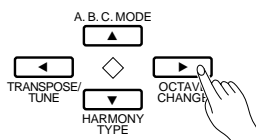
ディスプレイ右下のデータエントリーボタン[-][+]で、チューン(ピッチ)の微調整を行います。427.5～452.5Hz(単位：0.5Hz)の範囲で設定してください。

- (注) どちらもデータエントリーボタン[-][+]を同時に押せば、デフォルト(初期設定値)に戻ります。
- (注) [EXIT]ボタンを押すか、いずれのデータエントリーボタン[-][+]も押さずに約10秒間放置すると、通常の演奏状態のディスプレイに戻ります。
- (注) 鍵盤を押しながら設定変更した場合、トランスポーズは次の押健から、チューンは現在発音中の音から変化します。

●オクターブチェンジ



ディスプレイ右のシフトボタン▶を押すと、オクターブチェンジモードに入ります。



ディスプレイ左下のデータエントリーボタン[-][+]でオーケストラ2の、ディスプレイ右下のデータエントリーボタン[-][+]でオーケストラ1のオクターブチェンジを行います。1down, Normal, 1up(単位：1オクターブ)の範囲で設定してください。

- (注) ボイスによっては鍵盤上の高音部・低音部である鍵盤から1オクターブピッチが変化するものがあります。そのボイスに関しては、ピッチベンド使用時にも同様の変化が起こるポイントがあります。
- (注) [EXIT]ボタンを押すか、いずれのデータエントリーボタン[-][+]も押さずに約10秒間放置すると、通常の演奏状態のディスプレイに戻ります。
- (注) 鍵盤を押しながら設定変更した場合、次の押健から変化します。

ボイスをメモリーしてみましょう

(ボイスレジストレーション)

PSR-5700は、ボイス(オーケストラ1・オーケストラ2)の組み合わせを最大10種類までメモリーできます。この機能はデュアルまたはスプリットモードを使用する時、ボタン一つでボイスの組み合わせが呼び出せ、大変便利です。ボイスレジストレーションはボイスの他に、オーケストレーション、キーベロシティ、サステイン、ハーモニーエフェクトのON/OFF、ボリューム、リバース、エフェクトなどのセッティングもメモリーします。

それではボイスの組み合わせをメモリーして、呼び出してみましょう。

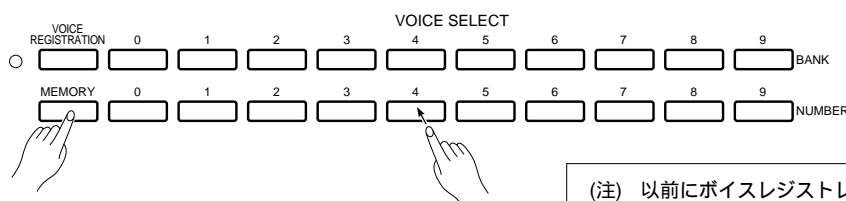
1. ボイスを選択します。

オーケストラ1とオーケストラ2のボイスを前章の方法で選択します。ここでは、ACOUSTIC BASS (74)とVIBES (52)を使用してみます。

>74:Aco.Bass
00:Eurobeat 52:Vibes

2. 組み合わせをメモリーします。

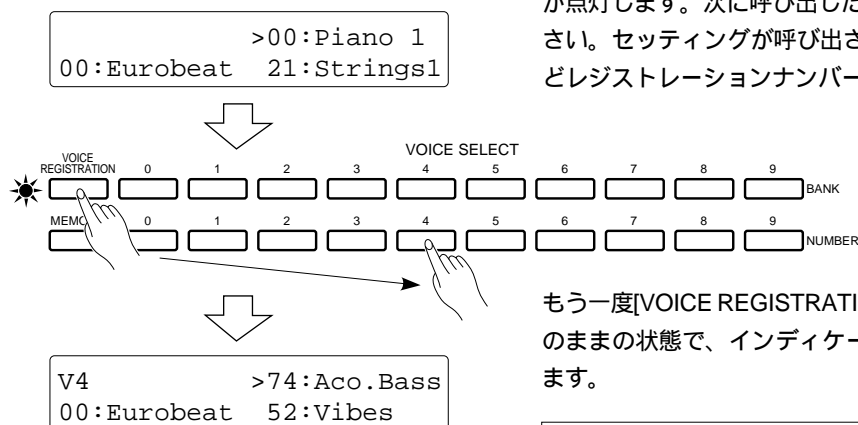
[VOICE REGISTRATION]ボタン下の[MEMORY]ボタンを押しながら[VOICE SELECT]NUMBERボタン (0~9)の一つを押します。



(注) 以前にボイスレジストレーションを呼び出した場合はそのレジストレーションナンバーがディスプレイ右上に表示されます。

3. メモリー済みの組み合わせを呼び出します。

まず[VOICE REGISTRATION]ボタンを押すと、ボタン左のインディケーターが点灯します。次に呼び出したい組み合わせのNUMBERボタンを押してください。セッティングが呼び出されると同時に、ディスプレイ左上に「V4」などレジストレーションナンバーが表示されます。



もう一度[VOICE REGISTRATION]ボタンを押すと、呼び出されたボイスはそのままの状態、インディケーターとレジストレーションナンバーが消灯します。

(注) ディスプレイ上段に表示されるレジストレーションナンバーは、下記のデータが変更されると自動的に消灯します。

ボイスレジストレーションでメモリーできるデータ

オーケストレーション

オーケストラ1ボイス
オーケストラ2ボイス
オーケストラ1ボリューム
オーケストラ2ボリューム
オーケストラ1オクターブ
オーケストラ2オクターブ

ハーモニーON/OFF

ハーモニータイプ
キーベロシティON/OFF
サステインON/OFF (ペダル使用時を除く)
サステインパートセレクト
ピッチベンドセレクト
ホイールON/OFF (モジュレーションのみ)

ホイールタイプ

リバースON/OFF
リバースタイプ&オーケストラ1,2のデプス
エフェクトON/OFF
エフェクトタイプ&オーケストラ1,2のデプス

(注) ボイスレジストレーションデータはフロッピーディスクにセーブすることが可能です。応用編のP.44[F5]の「2. トゥーディスク」の項を参照してください。

アカンパニメント (伴奏) を使ってみましょう

リズムスタイル (アカンパニメントスタイル) は、36種類プリセットされています。

スタイルリスト

BANK 0	BANK 1	BANK 2	BANK 3	BANK 4	BANK 5
00 EUROBEAT	10 8 BEAT BALLAD	20 SYNTH BOOGIE	30 JAZZ BALLAD	40 BOSSA NOVA	50 REGGAE
01 DANCE POP	11 ROCK SHUFFLE	21 SOUL ROCK	31 SHUFFLE	41 SAMBA	51 COUNTRY
02 PARTY POP	12 16 BEAT-LIGHT	22 SOUL BALLAD	32 BOOGIE	42 LATIN POP	52 POLKA
03 ROCK'N'ROLL	13 16 BEAT BALLAD	23 FUNK SHUFFLE	33 WALTZ	43 RHUMBA	53 MARCH
04 60'S ROCK	14 PIANO BALLAD	24 SWING	34 SLOW WALTZ	44 TANGO	54 6/8 MARCH
05 8 BEAT-LIGHT	15 6/8 SLOW ROCK	25 BIG BAND	35 JAZZ WALTZ	45 CHA-CHA	55 NEW AGE

アカンパニメントの使用方法は大きく2つに分かれます。

●オートベースコード (ABC)

左手鍵域 (スプリットポイントより左側の鍵盤→P.20参照) で演奏されたコードに応じて、リズムに乗ったコードパターンとベースパターンが自動的に演奏されます。

押鍵方法は以下の3種類です。

- ・フィンガードコード (FC) ... ABCをONにすると (工場出荷時は) このモードがセットされています。このモードでは、鍵盤のスプリットポイントより左側 (スプリットポイント含む) で押さえられたコードに従って、アカンパニメントが演奏されます。
- ・シングルフィンガー (SF) ... このモードでは、鍵盤の左側を使って3本以内の指でコードを作り、それに従いアカンパニメントを演奏させることができます。
- ・マニュアルベース (MB) このモードでは、鍵盤の左側で単音のベースを演奏できます。ベース音は90種類のボイス (ボイスナンバー 00 ~ 89、カスタムボイス00 ~ 89も使用可) の中から自由に選ぶことができます。

ABC MODE: Fingered Chord
SF FC MB

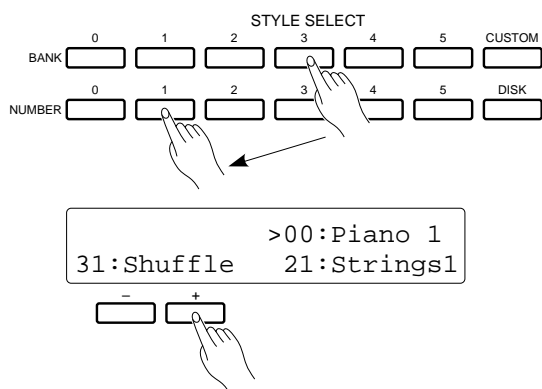
(注) PSR-5700の同時発音数は最大38音ですが、オートベースコードを使用するとアカンパニメントに音数が多く使用され、鍵盤での演奏の同時発音数は減少します。

●インタラクティブアカンパニメント (IA)

演奏状況を感じて、自然な流れで伴奏に変化を与えます。

オートベースコード(ABC)アカンパニメントを使ってみましょう

1. スタイルを選択します。

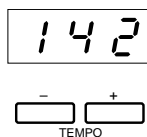


STYLE SELECTボタンを使って、スタイルナンバーを入力します。上段BANKボタンを押してスタイルナンバーの10の位を、下段NUMBERボタンを押して1の位を選択します。例えば、31のSHUFFLEを選択するには、BANK[3]ボタンとNUMBER[1]ボタンを押します。BANKボタンとNUMBERボタンはBANKボタンから先に押してください。NUMBERボタンが押された瞬間にスタイルが切り替わります。また、同じバンク内のスタイルの変更はNUMBERボタンのみを押せば変更できます。

(注) BANKボタンのみを押して、しばらく(約3秒)何の操作もしないと、変更されたバンクナンバーはキャンセルされ、表示はもとの状態に戻ります。

スタイルナンバーは、LCDディスプレイ左下のデータエントリーボタン[-][+]を使用して増減することもできます。この場合一度押せば1だけ増減、押し続けられれば連続で増減します。

2. テンポをセットします。



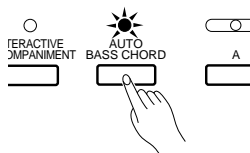
スタイルを選択すると、そのスタイルに適した“標準テンポ”も自動的に選択されます。そのテンポは「♩=(1分間の4分音符の数)」でLEDディスプレイに表示されます。

演奏前、演奏中に関わらず、LEDディスプレイ下のテンポボタン[-][+]を使用して40~280の間でテンポを変更することができます。[-][+]を一度押せば1だけ増減、押し続けられれば連続で増減します。

(注) 選択したスタイルの標準テンポは[-][+]を同時に押せば、いつでも呼び出せます。

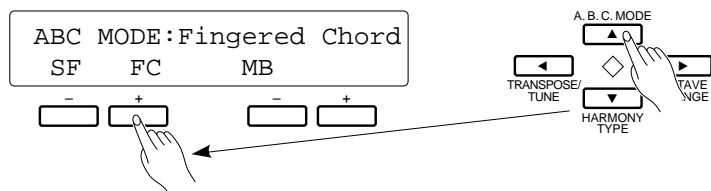
(注) スタイルはアカンパニメントの演奏中でも変更することができますが、この時テンポは変わりません。

3. オートベースコード(ABC)をONにします。



[AUTO BASS CHORD]ボタンを押すとインディケーターが点灯し、ABCモードがONになります。デフォルト(工場出荷時)ではフィンガードモードが選択されています。

4. ABCモードを選択します。

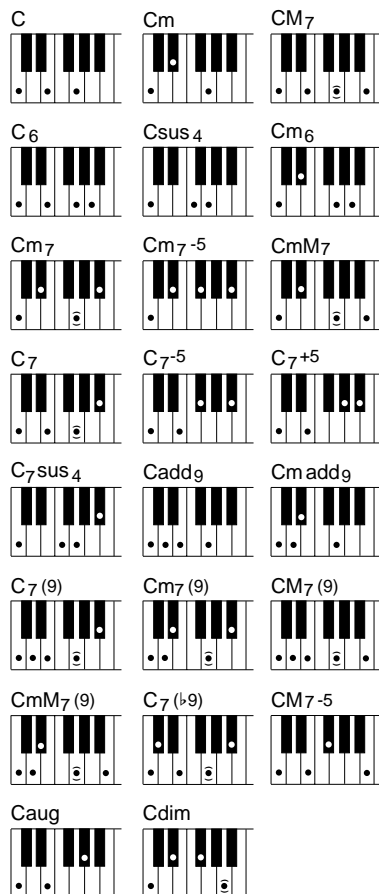


ページボタン▲を押してLCDディスプレイをABCモードに切り替えます。ディスプレイ下のデータエントリーボタン[-][+]を使ってフィンガードコード(FC)、シングルフィンガー(SF)、マニュアルベース(MB)の中からABCモードを選択します。各モードの特長は次頁以降を参照してください。

アカンパニメント (伴奏) を使ってみましょう

●フィンガードコード (FC)

[C の押鍵例]



このモードでは、スプリットポイントより左側(スプリットポイント含む)の鍵盤でコードが押さえられると、そのコードと選ばれたスタイルに従ってアカンパニメントが演奏されます。

フィンガードコードで認識されるコード

メジャー [M]	1-3-5*
マイナー [m]	1-b3-5*
メジャーセブンス [M7]	1-3-(5)-7*
メジャーシックス [6]	1-3-5-6
サスフォー [sus4]	1-4-5*
マイナーシックス [m6]	1-b3-5-6
マイナーセブンス [m7]	1-b3-(5)-b7
マイナーセブンスフラットファイブ [m7-5]	1-b3-b5-b7
マイナーメジャーセブンス [mM7]	1-b3-(5)-7*
セブンス [7]	1-3-(5)-b7*
セブンスフラットファイブ [7-5]	1-3-b5-b7
オーギュメントセブンス [7+5]	1-3-#5-b7*
セブンスサスフォー [7sus4]	1-4-5-b7*
アッドナインス [add9]	1-2-3-5*
マイナーアッドナインス [madd9]	1-2-b3-5*
セブンスナインス [7(9)]	1-2-3-(5)-b7*
マイナーセブンスナインス [m7(9)]	1-2-b3-(5)-b7*
メジャーセブンスナインス [M7(9)]	1-2-3-(5)-7*
マイナーメジャーセブンスナインス [mM7(9)]	1-2-b3-(5)-7*
セブンスフラットナインス [7(b9)]	1-b2-3-(5)-b7*
メジャーセブンスフラットファイブ [M7-5]	1-3-b5-7*
オーギュメント [aug]	1-3-#5
ディミニッシュ [dim]	1-b3-b5-(6)

(注) カッコ() 内の音符は省略しても構いません。

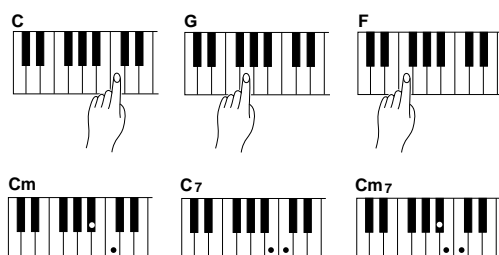
(注) *アスタリスクのマークがついたコードは、転回形も検出されますので、根音(ルート音)が演奏されるコードの最低音にならなくても構いません。

(注) ABCモードでアカンパニメントがストップしている時に、左手鍵域でコードを演奏するとコードとベース音が鳴ります。

黒鍵を含めて隣接する3音を押鍵するとコード演奏がキャンセルされ、リズム楽器のみの演奏になります(コードキャンセル)。

具体的なコードの押さえ方はP.36のフィンガリングチャートを参照してください。

●シングルフィンガー (SF)

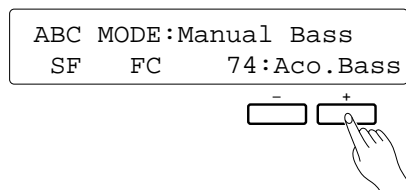


このモードでは、スプリットポイントより左側(スプリットポイント含む)の鍵盤で、3本以内の指でメジャー、マイナー、セブンス、マイナーセブンスのコードを作ることができ、そのコードと選ばれたスタイルに従ってアカンパニメントが演奏されます。

シングルフィンガーで認識されるコードの押さえ方

- メジャー(M) コード ルートキーを押さえてください。
- マイナー(m) コード ルートキーと、ルートキーより左側の黒鍵を同時に押さえてください。
- セブンス(7) コード ルートキーと、ルートキーより左側の白鍵を同時に押さえてください。
- マイナーセブンス(m7) コード .. ルートキーと、ルートキーより左側の黒鍵と白鍵を同時に押さえてください。

●マニュアルベース (MB)

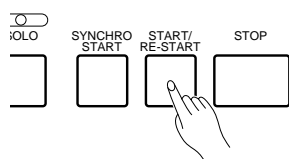


このモードでは、鍵盤の左側で単音のベースをマニュアル演奏できます。LCDディスプレイ右下のデータエントリーボタン[-][+]、または、VOICE SELECT、CUSTOMボタンを使って、ベース音を90種類のボイス (ボイスナンバー00～89、カスタムボイス00～89も使用可)の中から自由に選んでください。

(注) このモードでは自動伴奏は動きません。(IAは動きます。)

5. アカンパニメントをスタートします。

●スタート



アカンパニメントのスタート方法には以下の3種類があります。

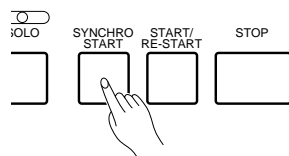
[START/RE-START]ボタンを押すと同時にリズムがスタートします。キーボードの左手鍵域でコードが認識されるまで、リズムのみの演奏を繰り返します。また、オートベースコードがOFFになっている時もリズムのみの演奏を繰り返します。

[START]ボタンを押す前に、スタート時のバリエーションが選択できます。P.20「7. アカンパニメントのバリエーションを選択します。」の項を参照してください。

アカンパニメントの演奏中に[START/RE-START]ボタンを押すと、再度パターンの1小節目からアカンパニメントが演奏されます(リスタート)。変拍子の曲を演奏するなどに利用してください。

(注) 付属のヤマハFC5フットスイッチをリアパネルのFOOT SW.ジャックに接続すれば、アカンパニメントのスタート/ストップ、スタート/リスタートをフットスイッチで操作することもできます。詳細は応用編のP.35[F3]の「2. フットスイッチセレクト」の項を参照してください。

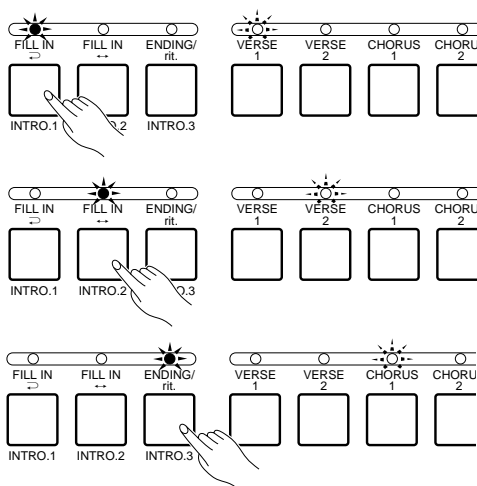
●シンクロスタート



[SYNCHRO START]ボタンを押すとビートインディケーターの左端が点滅します。キーボードの左手鍵域でキーが押されると、アカンパニメントがスタートします。

(注) アカンパニメントの演奏中に[SYNCHRO START]ボタンを押すと、演奏がストップし、シンクロ待機状態になります。

●イントロスタート



[SYNCHRO START]ボタンを押し、[INTRO 1]～[INTRO 3]ボタンを押した後、左手鍵域でコードを演奏してください。イントロが演奏されてからベースまたはコーラスの演奏に移ります。

INTRO 1 ..イントロパターンを演奏した後、バース1 (VERSE 1)に移行します。

INTRO 2 ..イントロパターンを演奏した後、バース2 (VERSE 2)に移行します。

INTRO 3 ..イントロパターンを演奏した後、コーラス1(CHORUS 1)に移行します。

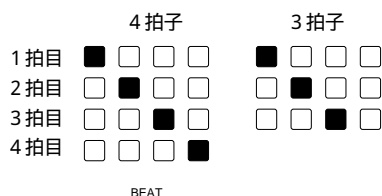
イントロ演奏中、またはイントロのシンクロ待機中にバリエーションボタンを押せばイントロ演奏後の移行先を変更することができます。

(注) [INTRO 1]～[INTRO 3]ボタンを押すだけでもイントロスタートになりますが、左手鍵域でコードが押鍵されるまでは、リズムのみの演奏となります。

(注) 付属のヤマハFC5フットスイッチをリアパネルのFOOT SW.ジャックに接続すれば、イントロスタートをフットスイッチで操作することもできます。詳細は応用編のP.35[F3]の「2. フットスイッチセレクト」の項を参照してください。

アカンパニメント (伴奏) を使ってみましょう

■ ビートインディケーターについて

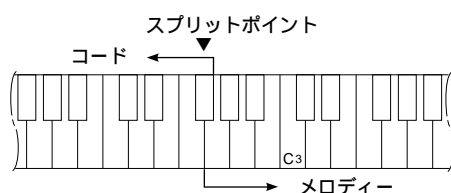


ビートインディケーターの4つのLEDは、左のように表示されます。

(注) 奇数小節の1拍目には4つ (または3つ) のLEDが同時点灯します。

(注) シンクロスタートの待機中は左端のLEDが4分のタイミングで点滅します。

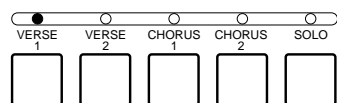
6. コードを演奏します。



キーボードの左側でコードを押さえると、フィンガードコード/シングルフィンガーの設定 (P.17, 18参照) に従って、そのコードに合ったベースラインとコードメロディーの演奏を自動的に開始します。アカンパニメントの演奏は左手を離しても続けられます。コードの変更は全てのキーを一旦離してから新しいコードを押さえてください。

(注) ABCモードでの演奏中に[AUTO BASS CHORD]ボタンを押して、そのインディケーターが消灯すると、ABCモードはOFFの状態になり、リズムのみの演奏になります。

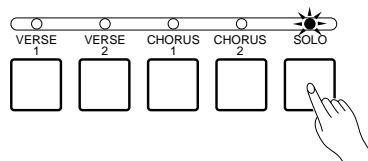
7. アカンパニメントのバリエーションを選択します。



アカンパニメントスタイルのそれぞれにはバース (曲のコーラスを導く序奏部分)、コーラス (曲の主題・テーマ・サビ)、ソロ、エンディングといったバリエーションがあります。5.の操作で、イントロを経て、[VERSE 1][VERSE 2][CHORUS 1]のアカンパニメントを演奏させることができます。また、[VERSE 1][VERSE 2][CHORUS 1][CHORUS 2]ボタンを押して、マニュアル操作で展開させることもできます。また、イントロの演奏中 (インディケーター点灯中) に [VERSE 1][VERSE 2][CHORUS 1][CHORUS 2] ボタンを押せば、イントロ演奏後のバリエーションを変更することができます。

(注) イントロ・ソロ・エンディングの中にはコード進行を持っているものがあります。この場合演奏は検出されたキーでコード進行され、LCDディスプレイの左上に [KEY:] として表示されます。

● ソロ

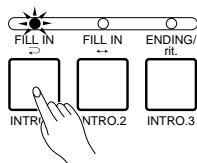


[SOLO]ボタンを押せば、アカンパニメントはソロパターンに移行します。これはマニュアル操作に加え、IAモードでの自動操作 (P.22参照) も可能です。

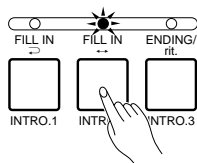
(注) ソロバリエーションは、アカンパニメントのイントロスタート時 (P.19参照) には自動的に解除されます。

8. フィルインを使用します。

● FILL IN ↷



● FILL IN ↔



PSR-5700には2タイプのフィルインがあります。

FILL IN ↷を押すと、フィルを演奏した後、同じバリエーションに戻ります。

FILL IN ↔を押すと、フィルを演奏した後、対応するコーラスまたはバースに移行します。

VERSE 1 ↔ CHORUS 1

VERSE 2 ↔ CHORUS 2

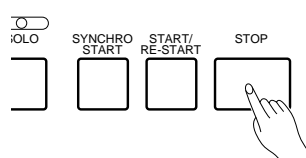
フィルの演奏中にバリエーションボタンを直接押せば、フィルイン後の行き先を変更することができます。

FILL INボタンを押し続けると、ボタンが離されるまで繰り返しフィルを演奏し続けます。

リアパネルのFOOT SWジャックに、付属のYAMAHA FC5フットスイッチを接続すれば、フィルインの操作がフットスイッチで行えます。詳細は応用編のP.35 [F3]の「2. フットスイッチセレクト」の項を参照してください。

(注) SOLOがONの時は移行の仕方が異なります。

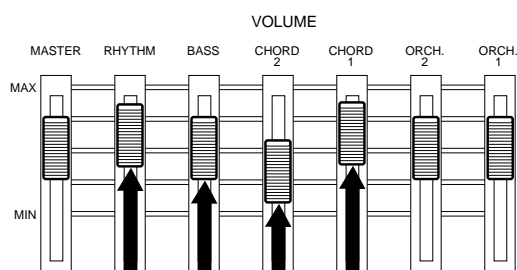
9. アカンパニメントのストップ。



[STOP]ボタンを押すとアカンパニメントが止まります。エンディングを演奏してから止めたい場合は、[ENDING/rit]ボタンを押してください。エンディングの演奏中にもう一度[ENDING/rit]ボタンを押すと、リタルダンドエンディング(徐々にテンポが落ちてエンディングします)になります。

(注) シングルボイス、またはデュアルボイス時にABCがONされ、リズムが停止していると、左手鍵域では常にストリングスが鳴ります。なお、このストリングス音はレフトホールド (P.31参照) できません。

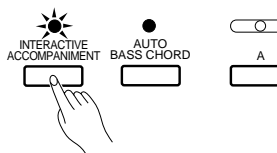
■ アカンパニメントボリューム



[RHYTHM] [BASS] [CHORD 1]および [CHORD 2]ボリュームでパート別に音量を調節して、全体のバランスをコントロールしてください。

アカンパニメント (伴奏) を使ってみましょう

インタラクティブアカンパニメント(IA)を使ってみましょう



[INTERACTIVE ACCOMPANIMENT]ボタンを押すと、インタラクティブアカンパニメントモードがON/OFFされます。

インディケーターが点灯し、インタラクティブアカンパニメントモードがONになると、PSR-5700は鍵盤での演奏状態をモニターし、アカンパニメントバリエーションを自動的に展開します。

例えば、VERSE 1の演奏中に、鍵盤の演奏状態 (音符数・押鍵の強さなど)が高まると、PSR-5700は自動的にVERSE 2に移行します。また、鍵盤での演奏がソフトな状態になれば、PSR-5700は自動的にVERSE 1にシフトダウンします。つまりPSR-5700は鍵盤における演奏状態を常に感知して、VERSE 1→VERSE 2間、CHORUS 1→CHORUS 2間で、よりふさわしいアカンパニメントに移行するのです。

(注) VERSEとCHORUS間には自動的に移行しません。

インタラクティブアカンパニメントの感度は応用編のP.38 で説明する[F4]の「2. インタラクティブアカンパニメント」を参照してください。

VERSE 1→VERSE 2、CHORUS 1→CHORUS 2のバリエーションチェンジを行なうには、インタラクティブアカンパニメントモード (→応用編P.38 参照)は、MODE=2を選択してください。

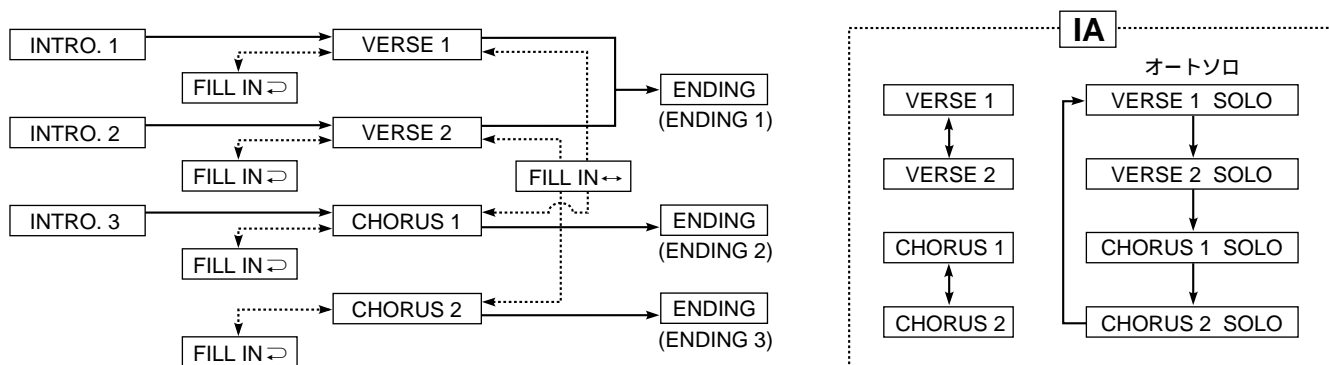
インタラクティブアカンパニメントには、自動的にバリエーションチェンジするMODE=2以外に、バリエーションをチェンジせずにコード音の一部にミュートがかかり (音量が下がり)演奏を引き立てるMODE=1があります。(応用編P.38参照)

●オートソロ

インタラクティブアカンパニメントモードで、オートソロ (応用編のP.38参照)が働いている時に、鍵盤上で数小節間何も演奏されないと、自動的にソロが演奏されます。ソロモードがONになると、バリエーションが多彩になるとともにVERSE 1→VERSE 2→CHORUS 1→CHORUS 2→VERSE 1などのサイクルを自動的に繰り返します。そして鍵盤での演奏を再開すると、演奏中のソロフレーズの区切りのある小節の終わりでソロ演奏は解除されます。

(注) 工場出荷時はオートソロ機能はONに設定されています。オートソロ機能のON/OFFは応用編のP.38 [F4]の「2. インタラクティブアカンパニメント」を参照してください。

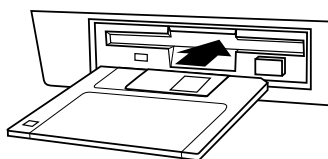
[ABC/INTERACTIVE ACCOMPANIMENTフローダイアグラム]



ディスクスタイルを使ってみましょう

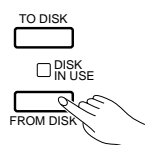
本体に蔵の36スタイルの他に、付属データディスクには1種類のリズムスタイル(70'S DISCO)が内蔵されています。このディスクスタイルを以下の手順でパネルの[DISK] ボタンにアサイン (登録)すれば、内蔵スタイル同様に使用することができます。

1. 付属データディスクをディスク挿入口に挿入します。



付属データディスクをPSR-5700の前面右のディスク挿入口に挿入してください。この時、ディスクのシャッターをディスク挿入口の方向に、また、ディスクのラベル側を上に向けて挿入してください。

2. [FROM DISK]ボタンを押します。

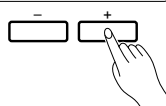


FROM DISK Size: 50k
00:SET1 NO YES

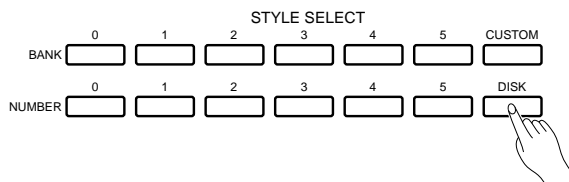
[FROM DISK]ボタンを押すと左のようなメッセージがディスプレイに表示されます。

3. ファイル (セット) のロード (呼び出し) を実行します。

FROM DISK Size: 50k
00:SET1 NO YES



ディスプレイ右下のデータエントリーボタン[+]を押すと、ロードが実行されます。ロードの実行中はディスプレイに“Don't remove disk”が表示されます。この間は絶対にディスクを取り出さないでください。ロードが終了すると“Completed!”が表示された後、通常の演奏状態に戻ります。また、右下のデータエントリーボタン[-]を押すと、ロードは実行されずに通常の演奏状態に戻ります。



ロード後は、パネルの[DISK] ボタンでディスクスタイルを選択して演奏してください。

(注) ファイル[SET 1]には、ディスクスタイルデータの他にシーケンスデータ(サンプル)とカスタムスタイルデータ(サンプル)が内蔵されています。よって[SET 1]をロードすると、ディスクスタイルデータと同時にこれらのデータも呼び出されます。ディスクスタイルのみをロードする場合は応用編のP.43[F5]の「1. フロムディスク」の項を参照してください。

(注) ディスクロード中のエラーメッセージは応用編のP.45「エラーメッセージ一覧」の項を参照してください。

(注) 本体に呼び出したディスクスタイルデータはフロッピーディスクにセーブすることが可能です。応用編のP.44[F5]の「2. トゥーディスク」の項を参照してください。

スーパースタイルプレイを使ってみましょ う

36種類のプリセットスタイルと1種類のディスクスタイルには、あらかじめ4種類ずつ(VERSE A/B, CHORUS A/B)のパネルセットアップがプリセットされています。この4種類のセットアップは、そのスタイルに適したセットアップ(音色やエフェクトなど)が、ボタン一つで簡単に呼び出せるのでスーパースタイルプレイ(SSP)と呼びます。好みのスタイルを選択したら、スーパースタイルプレイボタンを使ってそのスタイルに適したセットアップを呼び出して演奏してみましょう。また、プリセットされている設定をアレンジしてメモリーすることも可能です。

このセットアップは各スタイルごとに、それに適した音色・ボリュームバランス・リバーブ/エフェクトなど(下記参照)が設定されたもので、4つのバリエーションは落ち着いたイメージのもの(VERSE)から、華やかなイメージのもの(CHORUS)までに分類されています。

スーパースタイルプレイにプリセットされているデータ

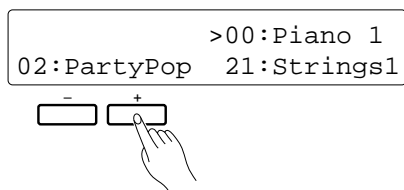
オーケストレーション	コード2ボリューム	サステインON/OFF
オーケストラ1ボイス	リズムボリューム	サステインパートセレクト
オーケストラ2ボイス	オーケストラ1オクターブ	ピッチベンドセレクト
オーケストラ1ボリューム	オーケストラ2オクターブ	リバーブON/OFF
オーケストラ2ボリューム	ハーモニーON/OFF	リバーブタイプ&デプス
ベースボリューム	ハーモニータイプ	エフェクトON/OFF
コード1ボリューム	レフトホールドON/OFF	エフェクトタイプ&デプス

スーパースタイルプレイのプリセットは、ボイスレジストレーションのメモリー内容に の項目がプラスされています。また、逆に「ホイールタイプ」と「ホイールON/OFF」「キーベロシティON/OFF」はボイスレジストレーションではメモリーされますが、スーパースタイルプレイではプリセットされていません。

リバーブタイプ&デプス、エフェクトタイプ&デプスに関しては、ボイスレジストレーションではオーケストラ1とオーケストラ2のデプスのみメモリー可能ですが、スーパースタイルプレイではすべてのデプスがメモリー可能です。

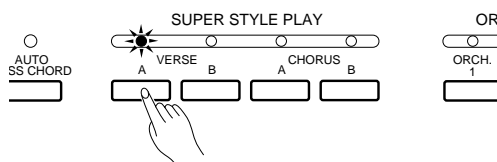
1. 好みのスタイルを選択します。

P.17の「オートベースコードアカンパニメントを使ってみましょう」の項を参照して好みのアカンパニメントスタイルを選択してください。



2. スーパースタイルプレイボタンを押します。

スーパースタイルプレイボタンのひとつを押してください。1.で選んだアカンパニメントスタイルに適したセットアップがパネルに呼び出され、ボタン上のインディケーターが点灯します。



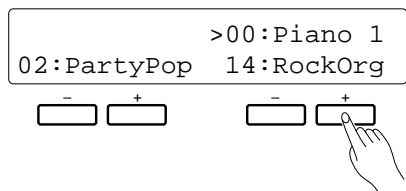
(注) スーパースタイルプレイボタンを押してからスタイルを変更すると、新しいスタイルに適したセットアップに変更されます。

(注) スーパースタイルプレイボタンを押してからカスタムスタイルを設定すると、インディケーターが点滅してスーパースタイルプレイが働かないことを示します。

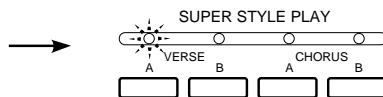
3. 演奏してみましょう。

呼び出されたセットアップで演奏してみましょう。また、他の3種類のスーパースタイルプレイボタンを押して、それぞれのセットアップで演奏してみましょう。

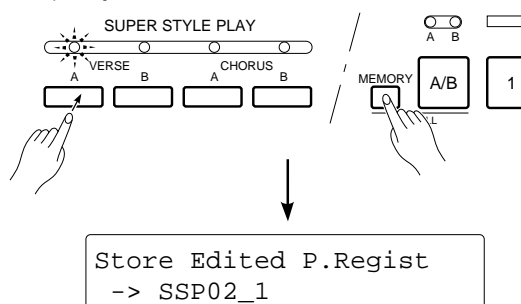
4. セットアップデータの変更。



呼び出したセットアップをもとに、自分なりのパネル設定を行ってみましょう。この時、データを変更するとスーパースタイルプレイの各インディケーターは点滅に変わります。



5. スーパースタイルプレイのメモリー。

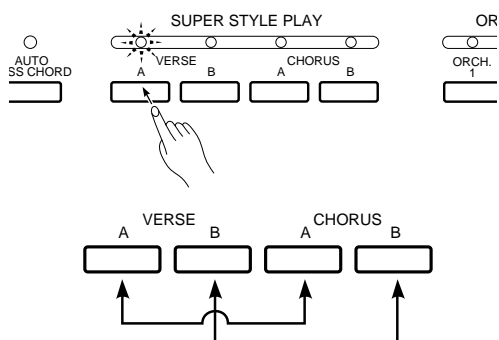


自分で変更したセットアップをスーパースタイルプレイとしてメモリーすることができます。PANEL REGISTRATIONのMEMORYボタンを押しながらスーパースタイルプレイの[VERSE A/B][CHORUS A/B]の中からメモリー先を選びボタンを押してください。

(注) スーパースタイルプレイのセットアップ内容をもとの状態に戻すには応用編P.46で説明される[F6]ユーティリティ / MIDIの「リコールイニシャルデータ」の項を参照してイニシャライズしてください。

(注) スーパースタイルプレイのセットアップ内容はパネルレジストレーションに、またセットアップ内容の一部はボイスレジストレーションにもメモリーすることができます。

6. スーパースタイルプレイの終了。



スーパースタイルプレイのモードから抜けるには、インディケーターが点灯している場合はそのスーパースタイルプレイボタンを1回、点滅している場合はスーパースタイルプレイボタンのいずれかを2回押してください。インディケーターが消灯します。ただし、この時、パネルのセットアップはスーパースタイルプレイモード時のままです。

(注) 応用編P.39で説明される「スーパースタイルプレイモード」での設定をONにすると、スーパースタイルプレイモードでアカンパニメントを使用し、VERSE 1/2 → CHORUS 1/2を切り替えると、スーパースタイルプレイも自動的にVERSE A/B → CHORUS A/B間で切り替わります。

(注) カスタムスタイル (C0 ~ C5) が選ばれている場合は、スーパースタイルプレイは終了できません。いったんプリセットスタイルに変更してから終了してください。

(注) スーパースタイルプレイデータはフロッピーディスクにセーブすることが可能です。応用編のP.44 [F5]の「2. トゥーディスク」の項を参照してください。

パッドを使ってみましょう

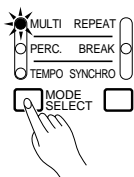
PSR-5700のパネル中央にある8つのパッドには、3種類の使用方法があります。それぞれの使用方法を十分に理解して、より高度な演奏にチャレンジしてください。

- マルチパッドパッドにフレーズとコードを4種類ずつ録音し、演奏中にいつでも自由に再生させることができます。
- パーカッションパッド .ボイスナンバー98、99のキーボードパーカッションの中から8つまでパッドにアサイン(登録)できます。アサインしたパーカッションサウンドは、演奏中にいつでも自由に再生させることができます。
- テンポパッド演奏中にテンポを速めたり、遅くしたり、もとのテンポに戻すなど、8種類のテンポ調整がパッドを叩くことによって可能になります。



(注) パッドデータはフロッピーディスクにセーブすることが可能です。応用編のP.44「トゥーディスク」の項を参照してください。

マルチパッド



MODE SELECTボタンを押して、MULTIインディケータが点灯すると、PAD1～8はマルチパッドとして機能します。マルチパッドは、1～4のフレーズパッドと5～8のコードパッドに分類されます。

PAD1～8にはあらかじめサンプルデータがプリセットされています。

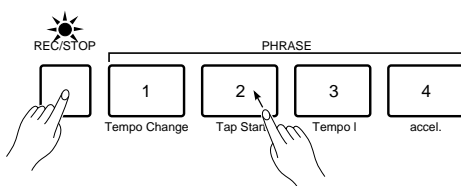
●フレーズパッド (PAD1～4)

フレーズパッドにはオーケストラ1 (デュアルモード時もオーケストラ1のみ)で演奏されたフレーズを、1パッド当たり約160音まで録音することができ、演奏中にいつでも自由に再生させることができます。

フレーズパッドに録音できるデータ (MIDI 情報も可)

オーケストラ1ボイス
ノートON/OFF (オーケストラ1)
モジュレーション (オーケストラ1の設定がONの時。応用編P.37参照)
オーケストラ1ボリューム
サステインON/OFF (オーケストラ1の設定がONの時。応用編P.36参照)
ビッチベンド (オーケストラ1の設定がONの時。応用編P.37参照)
グライドON/OFF (オーケストラ1の設定がONの時。応用編P.35参照)
オクターブチェンジ (オーケストラ1の設定)

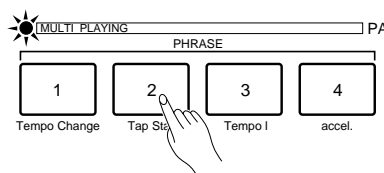
フレーズパッドの録音方法



1. REC/STOPボタンを押しながら録音するパッド (PAD1～4のいずれか)を押します。するとREC/STOPインディケータが点滅して録音待機状態になります。
2. オーケストラ1鍵域での演奏と同時に録音が始まります。REC/STOPボタンを押すと録音が終了します。また、録音容量がいっぱいになったり、他のパッドが押された時には、録音は自動的に終了します。

録音時のアカンパニメントは、スタートしていてもストップしていてもどちらでも構いませんので、アカンパニメントを演奏させながら録音すればフレーズのリズムを保つことができます。

フレーズパッドの再生方法

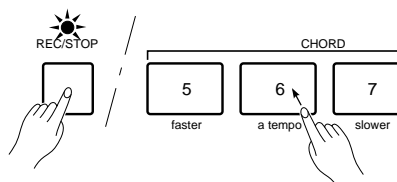


アカンパニメントのスタート/ストップに関わらず、パッドを押した瞬間にMULTI PLAYINGインディケーターが点灯し、パッドの再生が始まります。アカンパニメントが鳴っている場合はそのテンポに合わせて再生されます。またフレーズパッドは複数のパッドを同時に再生することも可能です。再生が終了するとMULTI PLAYINGインディケーターが消灯します。再生を途中で中断する場合はREC/STOPボタン、または再生中のパッドを押してください。

- (注) フレーズパッドの演奏情報はシーケンサー (応用編P.2参照)には録音されません。ただしパッドのON/OFFは録音されます。
- (注) フレーズパッドに録音した内容はディスクにセーブ/ロード (応用編P.43, 44参照)することができます。ただしパネルレジストレーションにはメモリーできません。
- (注) フレーズパッド再生時の音量はマスターボリュームでコントロールしてください。

●コードパッド (PAD5~8)

コードパッドの録音方法



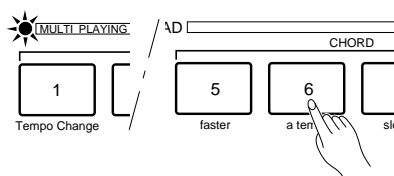
コードパッドには、ABCモードにおいて左手鍵域で演奏されたコード進行を、1パッド当たり約80コードまで録音することができ、演奏中にいつでも自由に再生させることができます。

1. REC/STOPボタンを押しながら録音するパッド (PAD5~8のいずれか)を押します。この時、アカンパニメントがスタートしている場合は、REC/STOPインディケーターが点滅して録音待機状態になります。アカンパニメントがストップしている場合は、アカンパニメントはシンクロスタート状態に、また、REC/STOPインディケーターが点滅して録音待機状態になります。

(注) この時ABCモードがOFFに設定されている場合は、自動的にONに変更され、またABCモードがマニュアルベースに設定されている場合は、自動的にフィンガードコードに変更されます。

2. 左手鍵域で演奏が始まると、それにシンクロして録音が始まります。REC/STOPボタン、または、録音中のパッドを押すと録音が終了します。また、録音容量がいっぱいになったり、リズムがストップ・リスタート・シンクロ待機の状態になったり、他のパッドが押された時には、録音は自動的に終了します。

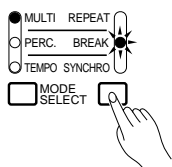
コードパッドの再生方法



アカンパニメントがスタートしている状態 (ABCモードはフィンガードコードまたはシングルフィンガーに設定しておいてください)で、パッドを押した瞬間にMULTI PLAYINGインディケーターが点灯し、コードの再生が始まります。テンポは再生時のテンポに合わせて再生されます。コードパッドの再生中はABCインディケーターが消灯し、スプリットポイントより左側の鍵域ではコード検出されず、右側の鍵域同様に演奏できます。また、コードパッドの再生の最後の2小節はMULTI PLAYINGインディケーターが点滅して、再生の終了を知らせます。再生が終了するとMULTI PLAYINGインディケーターが消灯し、ABCインディケーターが点灯します。再生を途中で中断する場合はもう一度そのパッドを押すか、REC/STOPボタンを押してください。

- (注) リズムの停止中、またはABCがOFFの状態コードパッドが押されると「Start ABC!」がディスプレイに表示されます。
- (注) ABCモードがマニュアルベースに設定されていると「Change to FC or SF mode!」がディスプレイに表示されます。
- (注) コードパッドは複数のパッドを同時に再生することはできません。常に一番新しく押されたパッドが優先されます。
- (注) コードパッドのコード進行はシーケンサー (応用編P.2参照)に録音可能です。
- (注) コードパッドに録音した内容はディスクにセーブ/ロード (応用編P.43, 44参照)することができます。ただしパネルレジストレーションにはメモリーできません。
- (注) 再生は小節単位になります。録音時に小節の途中でストップしても再生時はその小節の始め、または終りが区切りとなります。

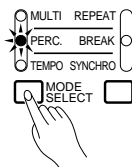
●マルチパッドのリピート再生



フレーズパッド、コードパッドともにリピート再生することが可能です。MODE SELECT右ボタンを押してREPEATインディケーターを点灯させてください。この状態でパッドを再生させれば、フレーズパッドは再生中のパッドを押すか、REC/STOPボタンを押すまで、コードパッドは再生中のパッドを押す、REC/STOPボタンを押す、または、リズムがストップ・シンクロ待機の状態になるまで繰り返し再生されます。

パッドを使ってみましょう

パーカッションパッド

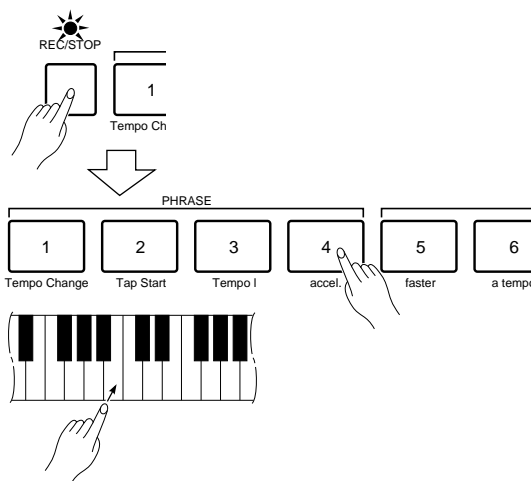


MODE SELECTボタンを押して、PERC.インディケーターが点灯すると、PAD 1～8はパーカッションパッドとして機能します。

パーカッションパッドのプリセット一覧

- | | | |
|---|-----------|-------------|
| 1 | Kick 1 | キック1 |
| 2 | Snare 3 | スネア3 |
| 3 | Tom1 Low | タム1 (低) |
| 4 | Tom1 Mid | タム1 (中) |
| 5 | Tom1 Hi | タム1 (高) |
| 6 | C.HiHat 1 | クローズドハイハット1 |
| 7 | O.HiHat 1 | オープンハイハット1 |
| 8 | CrashCy 2 | クラッシュシンバル2 |

パーカッションパッドのアサインの方法



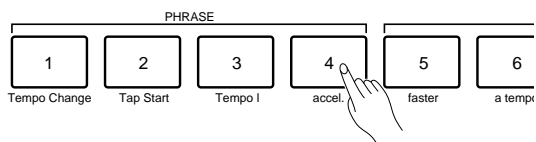
1. REC/STOPボタンを押してインディケーターを点灯させます。この状態でアサインするパッドを押しながら鍵盤を押すか、鍵盤を押しながらパッドを押してください。パッドにパーカッションボイスがアサインされます。また、この時の押鍵の強さによって、パーカッションボイスのペロシティ(強さ)もアサインされます。大きな音をアサインしたい場合は鍵盤を強く、小さな音をアサインしたい場合は鍵盤を弱く押してください。

REC/STOPボタンを押すと、鍵盤にボイスナンバー98が自動的にセットされます。(ディスプレイはしばらく 98DrumKitを表示してもとの表示に戻ります。) インディケーター点灯中は、ボイスのナンバーボタン8、9を利用して98または99を選択することができます。

(注) [F1]の「パーカッションボイスのカスタムボイスエディット」(応用編P.33 参照)で作成したパーカッションボイスはPADにアサインできません。

2. アサインが終了したら、REC/STOPボタンをもう一度押して、インディケーターを消灯させてください。

パーカッションパッドの再生方法



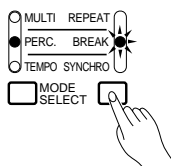
アカンパニメントのスタート/ストップに関わらず、パッドを押した瞬間にパーカッションパッドが再生されます。

(注) パッドにピッチベンドやエフェクトは効きません。

(注) アサインされたボイスによっては、パッドを押している間、再生音が持続するものがあります。

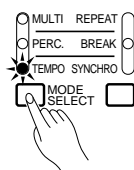
(注) パーカッションパッドに録音した内容はディスクにセーブ/ロード(応用編P.43, 44 参照)することができます。ただしパネルレジストレーションにはメモリーできません。

●パーカッションブレイク



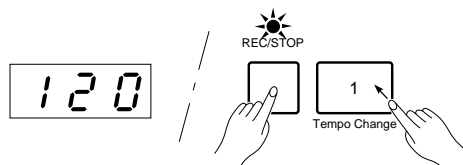
MODE SELECT右ボタンを押してBREAKインディケーターを点灯させると、パッドはパーカッションブレイクとして使用できます。これは、アカンパニメントが演奏されているときにパッドを押すと、アカンパニメントのリズム音がブレイクされ、その小節の最後まで発音しなくなるという機能です。

テンポパッド



MODE SELECTボタンを押して、TEMPOインディケーターが点灯すると、PAD1～8はテンポパッドとして機能します。それぞれのパッドの持つ機能は以下のとおりです。

PAD1: テンポチェンジ (Tempo Change)



REC/STOPボタンとPAD1を同時に押すと、その時のテンポがメモリーされます。リズムのスタート/ストップに関わらず、PAD1を押すと、テンポはメモリーされた値に変更されます。後述のPAD4アツチェレランド、PAD8リタルダンド中に押すとテンポの変化は止まり、メモリーされた値に変わります。

PAD2: タップスタート (Tap Start)



リズムが止まっている状態、もしくは、(イントロ)シンクロ待機状態で、PAD2を数回叩くと、実際にパッドを叩いた速さがテンポ値として設定されリズムがスタートします。3拍子なら3回、4拍子なら4回、5拍子なら5回パッドを叩いてください。なお、設定可能なテンポの範囲は♩=40～280で、この値を越えた設定はできません。

(注) パッドを規定回数叩く前にリズムをスタートさせると、タップスタートは無視され、表示されたテンポでスタートします。

(注) パッドを規定回数叩かない状態で数秒間経過する、スタイルを切り替える、または、リズムのストップボタンを押すとタップ回数はリセットされます。

PAD3: テンポ・プリモ (Tempo I)



リズムの演奏中にPAD3を押すと、リズムスタート時のテンポに戻ります。後述のPAD4アツチェレランド、PAD8リタルダンド中に押すとテンポの変化は止まり、リズムスタート時のテンポに戻ります。

PAD4: アツチェレランド (accel.)



リズムの演奏中にPAD4を押すと、8分音符に1回、一定の割合でテンポ値をアップさせます。この変化は2小節間続き、その後は変化しません。アツチェレランド中にもう一度このパッドを押すと、テンポアップは止まります。

(注) アツチェレランド中にフィルインパターンに移った時は、そのままテンポ変化が続き、フィルインの終了とともにテンポ変化が止まります。

PAD5: ファスター (faster)



リズムのスタート/ストップに関わらず、PAD5を押すと、テンポは一定の割合でアップされます。PAD4アツチェレランド、後述のPAD8リタルダンド中に押すとテンポの変化は止まります。

パッドを使ってみましょう

PAD6: ア・テンポ (a tempo)



リズムの演奏中にPAD6を押すと、PAD1:テンポチェンジ、PAD4:アツチェレランド、PAD5:ファスター、PAD7:スローワー、PAD8:リタルダンドによって変更されたテンポ値は、変更前の値に戻ります。PAD4アツチェレランド、後述のPAD8リタルダンド中に押すとテンポの変化は止まりア・テンポの値に戻ります。

PAD7: スローワー (slower)



リズムのスタート/ストップに関わらず、PAD7を押すと、テンポは一定の割合でダウンされます。PAD4アツチェレランド、後述のPAD8リタルダンド中に押すとテンポの変化は止まります。

PAD8: リタルダンド (rit.)

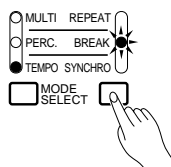


リズムの演奏中にPAD8を押すと、8分音符に1回、一定の割合でテンポ値をダウンさせます。この変化は2小節間続き、その後は変化しません。リタルダンド中にもう一度このパッドを押すと、テンポダウンは止まります。

(注) [PAD8/rit.]はP.21の[ENDING/rit.]と同じテンポの変化を見せますが、[ENDING/rit.]はリズムがストップした時にもとのテンポ値に戻るのに対し、[PAD8/rit.]はリズムがストップしてももとのテンポ値には戻りません。

(注) リタルダンド中にフィルインパターンに移った時は、そのままテンポ変化が続き、フィルインの終了とともにリタルダンド前のテンポに戻ります。

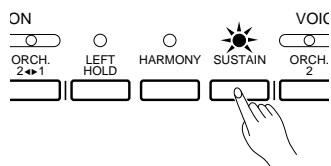
●テンポパッドのシンクロモード



テンポパッドを使用する時に、MODE SELECT右ボタンを押してSYNCHROインディケーターを点灯させると、パッドを押してもすぐにテンポは変わらず、次の小節の1拍目からテンポの変更を開始します。(PAD2はシンクロモードにしても何も効果が得られません。)

エフェクト (効果) をかけましょう

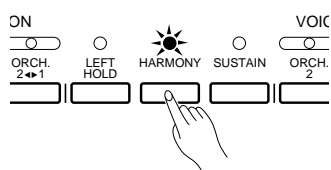
●サステイン



[SUSTAIN]ボタンを押すと、サステインエフェクトがON/OFFします。ON (インディケーターが点灯)すれば、ボイスにサステインがかかります。なお、リアパネルのSUSTAINジャックにフットスイッチを接続すると、[SUSTAIN]ボタンでのON/OFFに代わって、フットスイッチの操作でON/OFFすることができます。

(注) サステインはオーケストラ1のみ、オーケストラ2のみ、または両方にかけられます。詳細は応用編のP.36[F3]の「4. サステインパートセレクト」の項を参照してください。

●ハーモニー

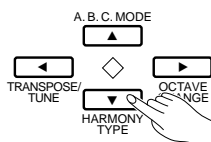
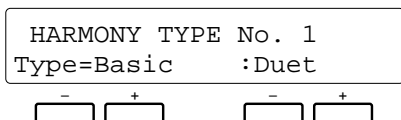


ハーモニーエフェクトはABCモードが選択されている時のみ、使用できます。[HARMONY]ボタンを押してON (インディケーターが点灯)すれば、左手鍵域で演奏されたコードに適したハーモニーが右側鍵域の押鍵に対して付加されます。ハーモニーのタイプは下記の「ハーモニータイプの選択」の項を参照してください。

(注) ハーモニーは右手(オーケストラ1)で押鍵された最高音に対して付加されます。また、ハーモニー音のボリュームもオーケストラ1ボイスのボリュームに従います。

(注) ハーモニーエフェクトはそのタイプにより、フィンガードコードの押さえ方によりテンポが多少ずれることがあります。

ハーモニータイプの選択



通常の演奏状態から、ディスプレイ右のページボタン[▼]を押すことによって、ハーモニータイプの選択モードに入ることができます。

ディスプレイ右下のデータエントリーボタン[-][+]を使って16種類のハーモニーのタイプの中から選択してください。左下のデータエントリーボタン[-][+]を使用すると、カテゴリー別の最初のハーモニー (1, 4, 10, 16) にステップします。

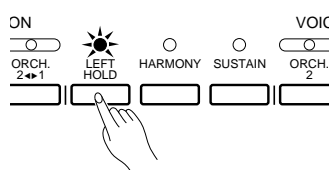
[ハーモニータイプリスト]

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 Basic Duet | 4 Pop Octaves |
| 2 Basic Trio | 5 Pop PopRiff |
| 3 Basic 4 Part | 6 Pop Strings1 |
| | 7 Pop Strings2 |
| | 8 Pop SynthEns. |
| | 9 Pop AddVocal |

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 10 Jazz 4WayClose | 16 Classic Strings |
| 11 Jazz 4WayOpen | |
| 12 Jazz VibesEns. | |
| 13 Jazz SaxEns. | |
| 14 Jazz WindEns. | |
| 15 Jazz Guitar | |

(注) [EXIT]ボタンを押すか、いずれのデータエントリーボタン[-][+]も押さずに約10秒間放置すると、通常の演奏状態のディスプレイに戻ります。

●レフトホールド

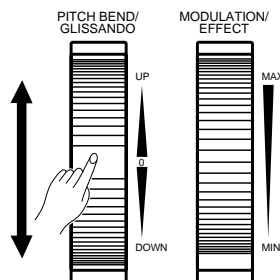


スプリットボイスモード[ORCH.2◀▶1]を選択すると、左手鍵域はコードを検出すると同時に発音します。この時、オーケストラ2に持続音系 (ストリングスなど)のボイスを設定して[LEFT HOLD]ボタンを押せば、コードを変更する直前まで前コード音をホールドします。減衰系のボイスの場合はサステイン効果が得られます。ただしアカンパニメントがエンディングあるいは、コード進行を持っているイントロ・ソロバリエーションに移行するとホールド機能は解除されます。

(注) マルチパッドのコード再生中やシーケンサーのアカンパニメントトラック再生中は、インディケーターが点灯していてもホールドはされません。

エフェクト(効果)をかけましょう

●ピッチベンド／グリッサンド



キーボード左のPITCH BEND/GLISSANDOホイールを回すと、選ばれているボイスによってピッチベンドまたはグリッサンドの効果が得られます。ピッチベンドは演奏された音程を滑らかにアップまたはダウンさせる(ベンドさせる)機能です。ホイールから手を離せば、もとのピッチに戻ります。グリッサンドは演奏された音程から最高1オクターブアップまたはダウンさせた音程まで連続して発音する機能です。ホイールから手を離せば、もとのピッチに戻ります。

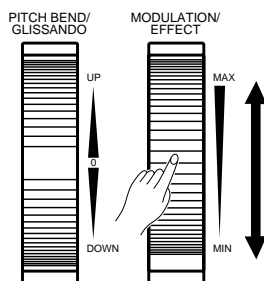
(注) ピッチベンド／グリッサンドの最高変化幅はボイスごとにプリセットされていますが、カスタムボイスに関しては希望する値にセットすることが可能です。詳細は応用編のP.29「カスタムボイスエディット」の項を参照してください。ただし、90～97のデュアル音色(カスタムボイスも含む)に関しては、最高変化幅が200セント(1音)に固定されています。

(注) ピッチベンド／グリッサンドはオーケストラ1ボイスのみ、オーケストラ2ボイスのみ、又は両方のボイスにかけることができます。詳細は応用編のP.37「ピッチベンドセレクト」の項を参照してください。また、ハーモニー音のピッチベンド変化はオーケストラ1の設定に従います。

(注) カスタムボイスを作成した場合、いくつかのボイスでは低鍵域そして高鍵域においてピッチベンドホイールを使用してもピッチが変化しない場合や急激なピッチ変化が起こる場合があります。

(注) ピッチベンドの効く鍵域はC-1～C7 (MIDI Note Number 12～108)です。この範囲より下の鍵域はマイナス方向への、上の鍵域はプラス方向へのベンドが効きません。

●モジュレーション／エフェクト

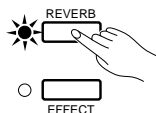


キーボード左のMODULATION/EFFECTホイールを回すと、モジュレーションまたはエフェクトのかかり具合が変わります。応用編P.37の「ホイールセレクト」で、モジュレーション(ボイスの変調)またはエフェクトを選択してください。ホイールを一番手前まで回すと効果が最小(モジュレーションの場合はゼロ)になり、奥に回転させるほど効果のデプス(深み)が増します。モジュレーション／エフェクトの変域はボイスごとにプリセットされていますが、カスタムボイスに関しては希望する値にセットすることが可能です。詳細は応用編のP.30「カスタムボイスエディット」の項を参照してください。

(注) モジュレーションは[F3]の「6. ホイールセレクト」で設定されるパートに効果を与えます。(応用編P.37参照)

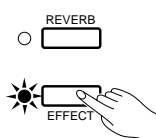
(注) ボイスによっては自動的にモジュレーションがかかったり、モジュレーションのホイールを使用しても変化しない場合があります。

●リバーブ



ボリュームコントロール右の[REVERB]ボタンを押し、インディケーターが点灯すると、オーケストラ1、オーケストラ2ボイス、アカンパニメント音にリバーブがかかります。リバーブの種類に関しては応用編のP.34「リバーブ／エフェクト」の項を参照してください。

●エフェクト



ボリュームコントロール右の[EFFECT]ボタンを押し、インディケーターが点灯すると、オーケストラ1、オーケストラ2ボイス、アカンパニメント音(リズム音を除く)にエフェクトがかかります。エフェクトの種類に関しては応用編のP.34「リバーブ／エフェクト」の項を参照してください。

パネルの状態をメモリーしてみましょう

(パネルレジストレーション)

パネルレジストレーション機能は、パネルの状態を16種類まで(A/Bバンクに8セットずつ)メモリーし、簡単なボタン操作ですぐに呼び出せるという機能です。

INITIAL PANEL REGIST A1
ROMANTIC PIANO

PSR-5700はデフォルト(工場出荷時)の状態ではパネルレジストレーションに、あらかじめデータがプリセットされています。このプリセットデータ呼び出すと、LCDにセットアップネーム(例: A1 ROMANTIC PIANO)が数秒現れます。

●パネルの状態をメモリーしてみましょう。

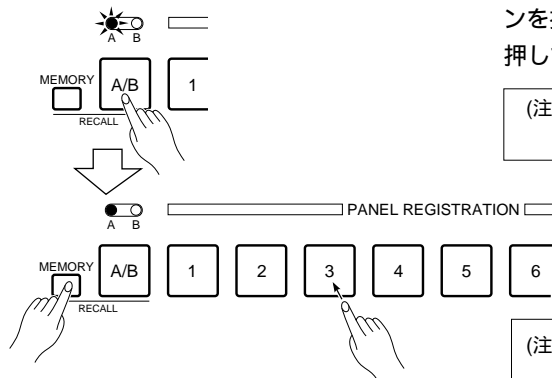
1. パネルのコントロールをセットしてください。

パネルのコントロール(ボイス・ボリューム・オーケストレーションなど)をメモリーさせたい状態にセットします。

パネルレジストレーションでメモリーできるデータ

オーケストレーション	ハーモニーON/OFF	レフトホールドON/OFF	ホイールタイプ
オーケストラ1ボイス	ハーモニータイプ	テンボ	スプリットポイント
オーケストラ2ボイス	スタイル	キーベロシティON/OFF	IAモード
オーケストラ1ボリューム	ABC ON/OFF	フットスイッチセレクト	オートソロON/OFF
オーケストラ2ボリューム	ABCモード	フットスイッチパーカッション	IAセンス
ベースボリューム	マニュアルベースボイス	エクスプレッションペダルセレクト	IAパート
コード1ボリューム	トランスポーズ	サステインON/OFF	スーパースタイルプレイモード
コード2ボリューム	IA ON/OFF	(ペダル使用時を除く)	リバーブON/OFF
リズムボリューム	アカンパニメントバリエーション	サステインパートセレクト	リバーブタイプ&デプス
オーケストラ1オクターブ	マルチパッドセレクト	ピッチベンドセレクト	エフェクトON/OFF
オーケストラ2オクターブ	シンクロ/ブレーク/リピートON/OFF	ホイールON/OFF	エフェクトタイプ&デプス

2. パネルの状態をメモリーします。

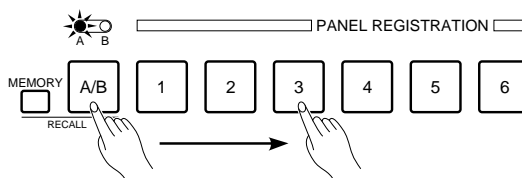


[A/B]ボタンを押して、AバンクまたはBバンクを選択します。それにしたがって、ボタン上のインディケーターAまたはBが点灯します。次に[MEMORY]ボタンを押しながら、PANEL REGISTRATIONボタンの1～8からひとつを選択して押してください。

(注) 以前にパネルレジストレーションを呼び出した場合はそのレジストレーションナンバーがディスプレイ右上に表示されます。

(注) メモリーすると、そのセットナンバーに以前メモリーされていたデータは消去されます。

●パネルの呼び出し

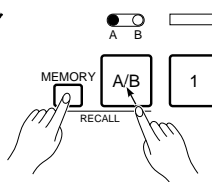


[A/B]ボタン、PANEL REGISTRATIONボタン1～8の順にボタンを押すと、そのセットナンバーにメモリーしたパネルデータがすぐに呼び出されます。

自分でメモリーしたパネルセットを呼び出した場合は、ディスプレイ左上にレジストレーションナンバー(A3など)が表示されますが、セットアップネームは表示されません。

プリセットデータは応用編のP.46で説明される [F6]の「2. リコールイニシャルデータ」によって呼び出せます。

●リコール



[MEMORY]ボタンを押しながら[A/B]ボタンを押すと、パネルレジストレーションを呼び出す直前のパネルが再現されます。自分のセットアップとパネルレジストレーションのセットアップを比較する時に便利です。

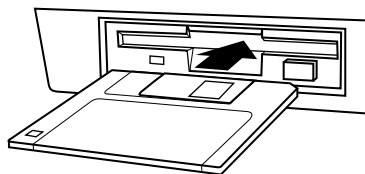
(注) パネルレジストレーションデータはフロッピーディスクにセーブすることが可能です。応用編のP.44 [F5]の「2. トゥーディスク」の項を参照してください。

DOC (Disk Orchestra Collection) ソフトを使ってみま

YAMAHAディスクオーケストラコレクションソフト(別売)を使用して、数々の名曲の演奏を自動再生して楽しむことができます。また、片手のパート練習をするなど、キーボードの個人練習をすることもできます。

PSR-5700はDOCの他にGM(GENERAL MIDI)にも対応しています。詳細は「DISK ORCHESTRA/GENERAL MIDIボタンについて」(応用編 P.47)の項を参照してください。

1. DOCディスクの挿入



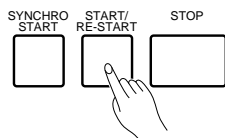
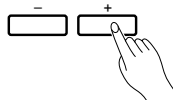
DISK ORCHESTRA PLAY
Song=ALL Mode=L+R



(注) ディスクがすでに入っている状態で、他のモードからDOCモードに入る場合は[DISK ORCHESTRA/GENERAL MIDI]ボタンを押してください。

2. ディスクの再生

DISK ORCHESTRA PLAY
Song=ALL Mode=L+R



ディスプレイ左下のデータエントリーボタン[-][+]を使って、再生したい曲のナンバーを選択してください。ディスク内のすべての曲を聴くときはALLを選択してください。そして[START]ボタンを押すと選択したソングが再生され、[STOP]ボタンを押すと再生がストップします。ALLを選択すると[STOP]ボタンを押すまで繰り返し再生します。ALLを選択しない限り、選択したソングは曲の最後で自動的にストップします。また、再生中はその小節数がLCDディスプレイに表示されます。

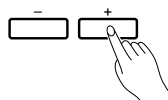
(注) [START]ボタンを押してもディスクの中の曲を検索している数秒間は再生が始まりませんのでご注意ください。

(注) DOCソフトの中にはテンポ表示されない曲もあります(フリーテンポフレーズなど)。この時、LEDディスプレイの中央にバーが3本表示されます。

(注) [START]ボタンを押してもアカンパニメントは機能しません。

3. 特定パートのみの再生 (パート練習)

DISK ORCHESTRA PLAY
Song=ALL Mode=L+R



メロディーの左手パート、右手パート、または双方のパートをキャンセルしてパート別の個人練習ができます。DOCソフトに付属の楽譜を参考に演奏してください。

ディスプレイ右下のデータエントリーボタン[-][+]を使って再生パートを選択してください。

MODE=L+R : 左手・右手両方のパートが自動的に演奏されます。

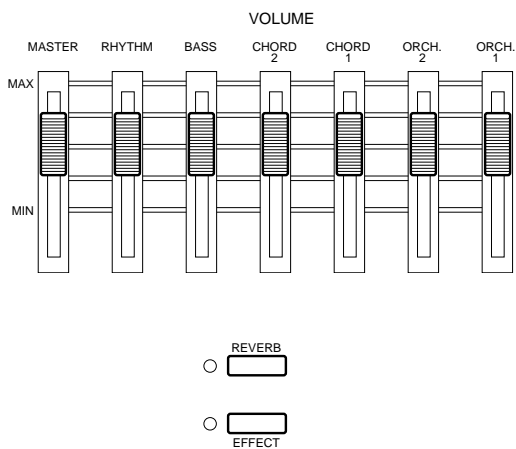
MODE=L : 左手パートのみが自動的に演奏されますから、右手のパート練習に適しています。

MODE=R : 右手パートのみが自動的に演奏されますから、左手のパート練習に適しています。

MODE=Off : 伴奏のみが演奏され、左手・右手両方のパートが演奏されません。両手パートの練習に適しています。

曲を選択すると自分で演奏するパートのボイスが自動的にセットされます。(ALLを選択した時は1曲目用ボイスがセットされます。)ボイスを変更する場合はVOICE SELECTボタンを使用してください。VOICE SELECTボタンを押すとディスプレイは自動的にボイスナンバーとボイスネームを表示します。(しばらくするとディスプレイは元の表示に戻ります。)

●ボリュームについて



DOCソフトの再生中は、ボリュームを使ってそれぞれのパート別の音量が調整できます。そして、MASTERボリュームでは常に全体の音量が調整できます。

ORCH.1 : 手弾きの[ORCH.1]の音量をコントロールします。

CHORD 1 : ディスクのメロディーラインの音量をコントロールします。

CHORD 2 : ディスクのバックイングの音量をコントロールします。

BASS : ディスクのベースパートの音量をコントロールします。

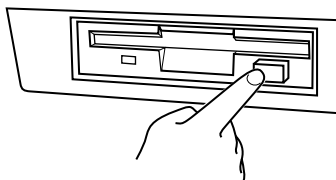
RHYTHM : ディスクのリズムパートの音量をコントロールします。

(注) それぞれのボリュームがコントロールするパートは、曲によっては異なる場合があります。

(注) DOCソフトの再生中のリバーブ、エフェクトは[REVERB]、[EFFECT]ボタンでON/OFFできます。また、リバーブ、エフェクトのタイプは、[F2]リバーブ/エフェクト(応用編P.34参照)で選択することができます。

(注) DOCの再生中は、ディスクからリバーブのON(タイプ)/OFFデータを受けると自動的にその値にセットされます。ただし、OFFデータを受け取った場合は、手弾き以外のパートの深さ(デプス)を0にするため、[REVERB]インディケーターが点灯していても深さを変更しない限り、それらのパートにはリバーブはかかりません。また、DOCの再生スタート時に手弾き以外のパートのエフェクトは深さが0に設定されるため、[EFFECT]インディケーターが点灯していても深さを変更しない限り、それらのパートにはエフェクトはかかりません。

4. ディスクの取り出し



ディスクの演奏が終わったら、ディスク挿入口横のイジェクトボタンを押してディスクを取り出してください。

(注) 以下の場合にはディスクが作動していますので、絶対にディスクを取り出したり、電源を切ったりしないでください。ディスクおよびデータ破損の原因となります。

- 1) [DISK IN USE]ランプの点灯中
- 2) DOCソフトの再生中

(注) ディスクの有無に関わらず、[EXIT]ボタンまたは[DISK ORCHESTRA/GENERAL MIDI]ボタンを押すとDOCモードから抜けられます。

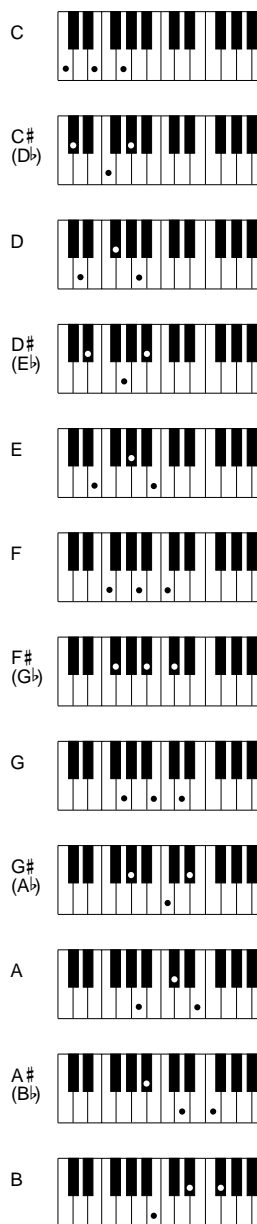
フィンガリングチャート

カッコ()内の音符は省略しても構いません。

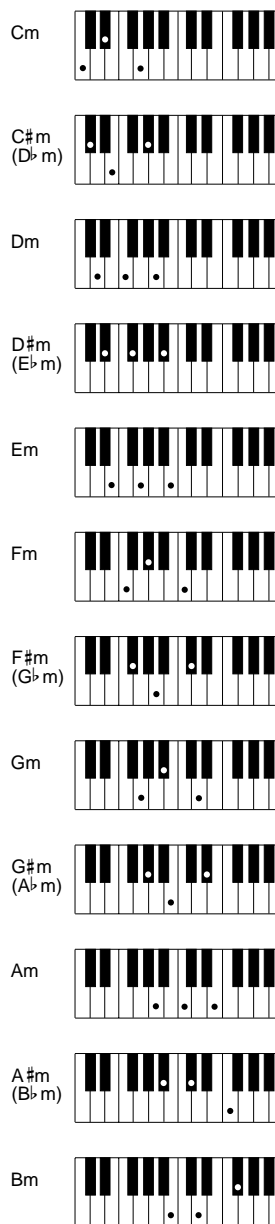
* アスタリスクがついたコードタイプは転回形も検出されますので、根音(ルート音)が演奏されるコードの最低音にならなくても構いません。

演奏前に曲で使用するコードを確認してください。 の付いたコードを使用する場合は、コード押鍵可能な位置までスプリットポイントを変更する必要があります。

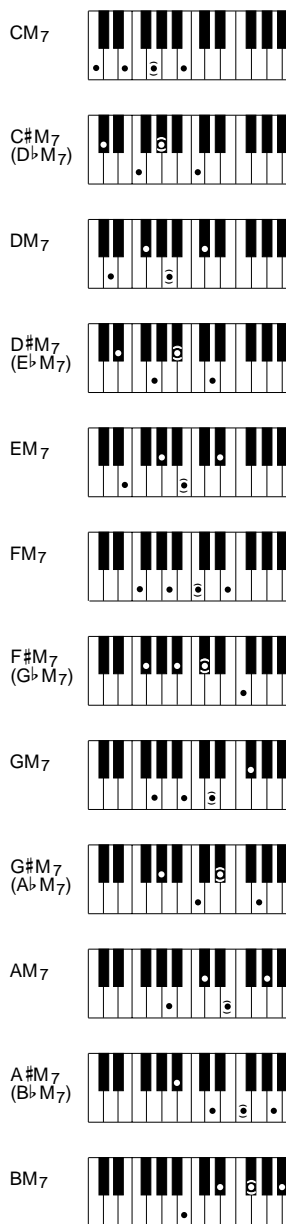
メジャー*



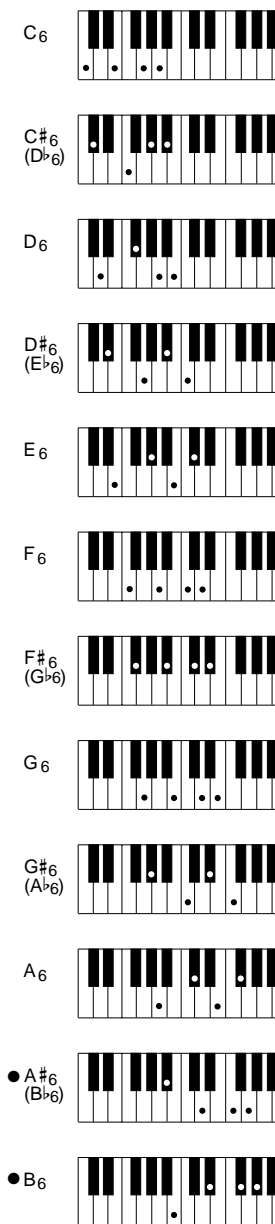
マイナー*



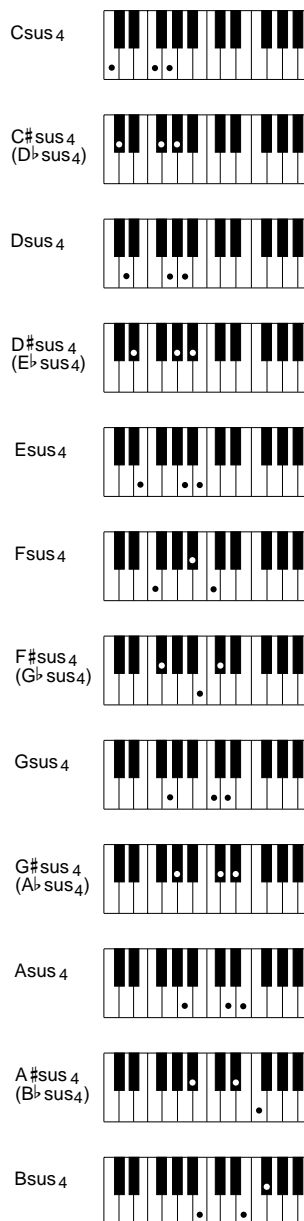
メジャーセブンス*



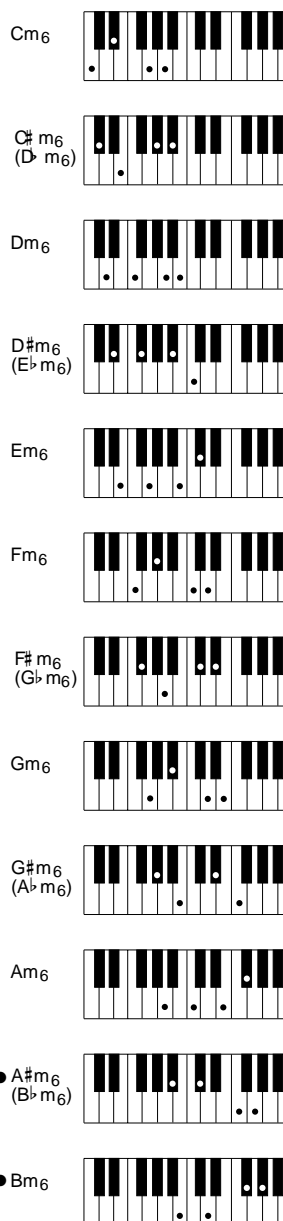
メジャーシックス



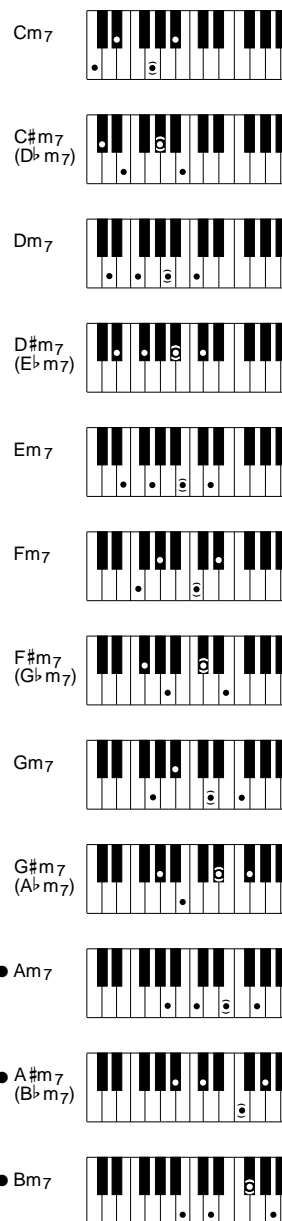
サスフォー*



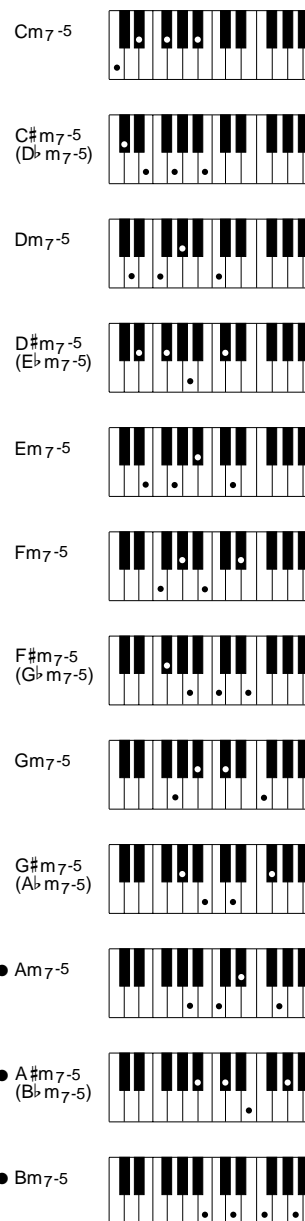
マイナーシックス



マイナーセブンス



マイナーセブンス
フラットファイブ



フィンガリングチャート

マイナーメジャー セブンス*	セブンス*	セブンスフラット ファイブ	オーギュメント セブンス*
CmM7 	C7 	C7-5 	C7+5
C#mM7 (D♭mM7) 	C#7 (D♭7) 	C#7-5 (D♭7-5) 	C#7+5 (D♭7+5)
DmM7 	D7 	D7-5 	D7+5
D#mM7 (E♭mM7) 	D#7 (E♭7) 	D#7-5 (E♭7-5) 	D#7+5 (E♭7+5)
EmM7 	E7 	E7-5 	E7+5
FmM7 	F7 	F7-5 	F7+5
F#mM7 (G♭mM7) 	F#7 (G♭7) 	F#7-5 (G♭7-5) 	F#7+5 (G♭7+5)
GmM7 	G7 	G7-5 	G7+5
G#mM7 (A♭mM7) 	G#7 (A♭7) 	G#7-5 (A♭7-5) 	G#7+5 (A♭7+5)
AmM7 	A7 	● A7-5 	A7+5
A#mM7 (B♭mM7) 	A#7 (B♭7) 	● A#7-5 (B♭7-5) 	A#7+5 (B♭7+5)
BmM7 	B7 	● B7-5 	B7+5

セブンスサスフォー*

C₇SUS₄C[#]₇SUS₄
(D^b₇SUS₄)D₇SUS₄D[#]₇SUS₄
(E^b₇SUS₄)E₇SUS₄F₇SUS₄F[#]₇SUS₄
(G^b₇SUS₄)G₇SUS₄G[#]₇SUS₄
(A^b₇SUS₄)A₇SUS₄A[#]₇SUS₄
(B^b₇SUS₄)B₇SUS₄

アッドナインス*

Cadd₉C[#]add₉
(D^badd₉)Dadd₉D[#]add₉
(E^badd₉)Eadd₉Fadd₉F[#]add₉
(G^badd₉)Gadd₉G[#]add₉
(A^badd₉)Aadd₉A[#]add₉
(B^badd₉)Badd₉マイナーアッド
ナインス*Cm add₉C[#]m add₉
(D^bm add₉)Dm add₉D[#]m add₉
(E^bm add₉)Em add₉Fm add₉F[#]m add₉
(G^bm add₉)Gm add₉G[#]m add₉
(A^bm add₉)Am add₉A[#]add₉
(B^badd₉)Bm add₉

セブンスナインス*

C₇(⁹)C[#]₇(⁹)
(D^b₇(⁹))D₇(⁹)D[#]₇(⁹)
(E^b₇(⁹))E₇(⁹)F₇(⁹)F[#]₇(⁹)
(G^b₇(⁹))G₇(⁹)G[#]₇(⁹)
(A^b₇(⁹))A₇(⁹)A[#]₇(⁹)
(B^b₇(⁹))B₇(⁹)

フィンガリングチャート

マイナーセブンス ナインス*



メジャーセブンス ナインス*



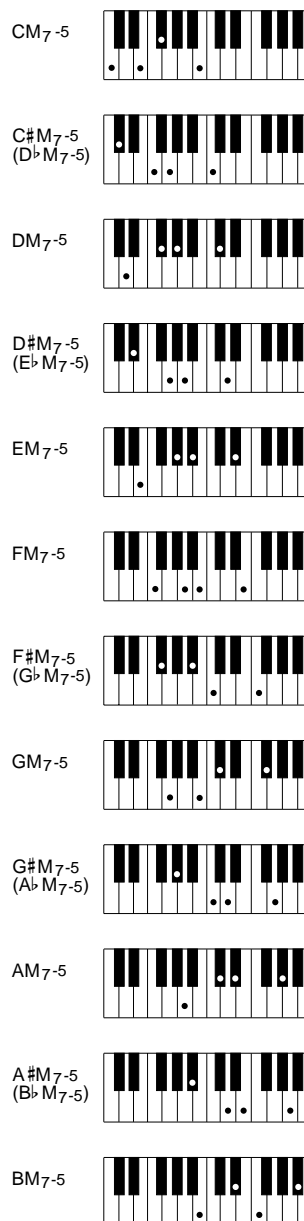
マイナーメジャーセブン スナインス*



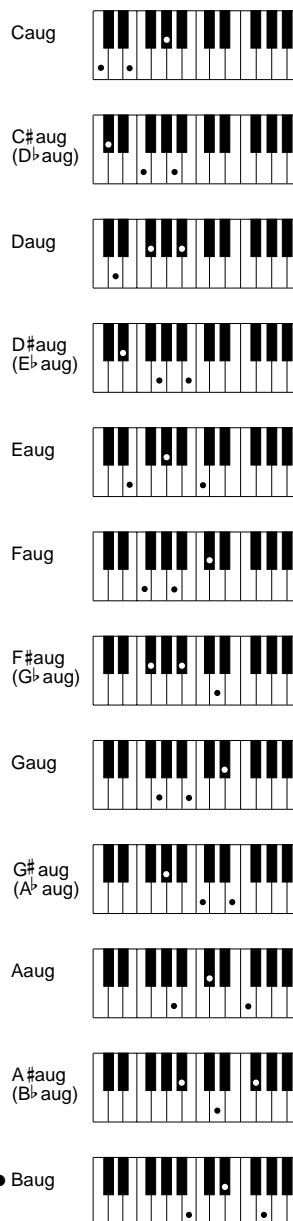
セブンスフラット ナインス*



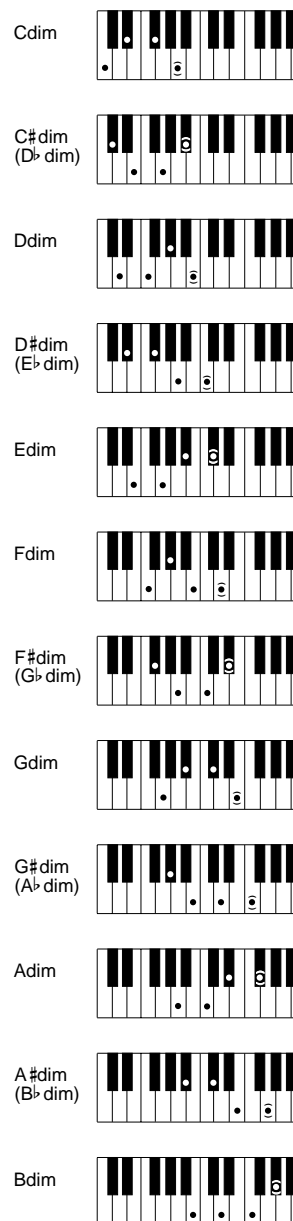
メジャーセブンス
フラットファイブ*



オーギュメント



ディミニッシュ



故障と誤りやすい現象

現象	原因	解決方法
パワースイッチをON/OFFした時にボツンという音をする。	電気が流れるため。	故障ではありません。
スピーカーから音が出ない。	ボリュームやエクスプレッションペダルが下がっているため。	ボリュームやエクスプレッションペダルを上げてください。
	ヘッドフォン端子にプラグが差し込まれているため。	プラグを抜いてください。
	MIDIのローカルコントロールがOFFになっているため。	ローカルコントロールをONにしてください。
オートベースコードの演奏中、押鍵コードを変えても演奏されるコードが変わらない。	左手鍵域で、前のコードを離さないうちに、次のコードに移行しようとしている。	コードの変更は、いったん鍵盤から指を離したうえで、次のコードを押さえてください。
	シングルフィンガーモードでフィンガードコードの押さえ方をしている。あるいはその反対。	シングルフィンガーモードとフィンガードコードモードでは、押さえ方が異なります。コードを確認して正しく押さえてください。
ディスク挿入口のランプが薄く点灯している。	ディスクの有無をいつも確認しているため。	故障ではありません。

オプション(別売)商品のご紹介

●ヘッドフォン	HPE-5 ¥5,500 HPE-3 ¥3,000
●エクスプレッションペダル	EP-1 ¥2,400
●フットスイッチ	FC5 ¥1,500
●MIDIケーブル	MIDI 03 (3m) ¥1,100 MIDI 15 (15m) ¥3,000

●フロッピーディスク	YFD-2DD ¥980
●キーボードスタンド	L-5 ¥15,000
●ベンチ	BC-6 ¥5,000

※商品の価格には、消費税は含まれておりません。

50音順索引

ア

ア・テンポ	30
アカンパニメント	16
アッチェレランド	29

イ

イジェクトボタン	35
イニシャライズ	9
インタラクティブアカンパニメント	16, 22
イントロスタート	19

エ

エフェクト(ホイール)	32
エフェクト(ボタン)	32

オ

オーケストレーション	10
オートソロ	22
オートベースコード	16
オクターブチェンジ	14

キ

キーボードパーカッション	12
--------------------	----

ク

グリッサンド	32
--------------	----

コ

コードキャンセル	18
コードパッド	27

サ

サステイン	31
-------------	----

シ

シングルフィンガー	18
シングルボイス	10
シンクロスタート	19

ス

スーパースタイルプレイ	24
スタート	19
スタイルリスト	16
ストップ	21
スプリットボイス	10
スプリットポイント	10
スローワー	30

ソ

ソロ	20
----------	----

タ

タップスタート	29
---------------	----

チ

チューン	14
------------	----

テ

ディスクオーケストラコレクション (DOC)ソフト	34
ディスクスタイル	23
ディスク挿入口	23
デモ	8
デュアルボイス	10
テンポ	17
テンポ・プリモ	29
テンポチェンジ	29
テンポパッド	29

ト

トゥーディスク	23
トランスポーズ	14

ハ

パーカッションパッド	28
パート練習	34
ハーモニー	31
ハーモニータイプ	31
パッド	26
パネルレジストレーション	33
バリエーション	20
パワースイッチ	8

ヒ

ビートインディケーター	20
ピッチベンド	32

フ

ファイル	23
ファスター	29
フィルイン	21
フィンガードコード	18
フィンガリングチャート	36
フレーズパッド	26
フロムディスク	23

ホ

ボイスリスト	10
ボイスレジストレーション	15
ボリューム	8, 9, 11

マ

マニュアルベース	19
マルチパッド	26

モ

モジュレーション	32
----------------	----

リ

リコール	33
リタルダンド(パッド)	30
リタルダンドエンディング	21
リバーブ	32

レ

レフトホールド	31
---------------	----

ロ

ロード	23
-----------	----

アルファベット順索引 (パネルにプリントされているもの)

基 ... 基礎編のページNo.を表します。

応 ... 応用編のページNo.を表します。

A

a tempo基30
 A/B (PANEL REGISTRATION)基33
 ABC MODE基17
 accel.基29
 ACCOMP. (SEQUENCER)応4
 AUTO BASS CHORD基17
 AUX. IN (R, L/L+R)基6
 AUX. OUT (R, L/L+R)基6

B

BANK (STYLE SELECT)基17
 BANK (VOICE SELECT)基11
 BASS (CUSTOM ACCOMP.)応17
 BASS (VOLUME)基8, 9, 11, 21
 BEAT基20
 BREAK (PAD)基28

C

CHORD (PAD)基27
 CHORD1 (VOLUME)基8, 9, 11, 21
 CHORD2 (VOLUME)基8, 9, 11, 21
 CHORUS 1基20
 CHORUS 2基20
 CHORUS A (SSP)基24
 CHORUS B (SSP)基24
 CUSTOM (STYLE SELECT)応18
 CUSTOM ACCOMPANIMENT
 PROGRAMMER応16
 CUSTOM VOICE応28

D

DELETE (SEQUENCER/CUSTOM
 ACCOMP.)応5, 16
 DEMO基8
 DISK (STYLE SELECT)基23
 DISK IN USE応43
 DISK ORCHESTRA/GENERAL MIDI応47

E

EDIT (SEQUENCER)応7
 EFFECT基32
 ENDING基21
 EXIT応27
 EXP. PEDAL応36

F

faster基29
 FILL IN基19
 FOOT SW.応35
 FROM DISK応42
 FUNCTION応26

G

GLISSANDO基32

H

HARMONY基31
 HARMONY TYPE基31
 HEADPHONES基6

I

INTERACTIVE ACCOMPANIMENT ... 基22
 INTRO基19

L

LEFT HOLD基31

M

MASTER (VOLUME)基8, 9, 11, 21
 MEMORY (PANEL REGISTRATION) 基33
 MEMORY (VOICE REGISTRATION) 基15
 MIDI IN, OUT, THRU基6, 応47
 MODULATION基32
 MULTI (PAD)基26

N

NUMBER (STYLE SELECT)基17
 NUMBER (VOICE SELECT)基11

O

OCTAVE CHANGE基14
 ORCH.1基10
 ORCH.1 (VOICE PART)基11
 ORCH.1 (VOLUME)基8, 9, 11, 21
 ORCH.2 (VOICE PART)基11
 ORCH.2 (VOLUME)基8, 9, 11, 21
 ORCH.2+1基10
 ORCH.2+1基10
 ORCHESTRATION基10

P

PAD MODE SELECT基26~30
 PANEL REGISTRATION基33

PERC. (PAD)基28
 PHRASE (PAD)基26
 PITCH BEND基32
 POWER基8

R

REC (PAD)基26~29
 RECORD (SEQUENCER/CUSTOM
 ACCOMP.)応4, 17
 REPEAT (PAD)基27
 REVERB基32
 RHYTHM (CUSTOM ACCOMP.)応17
 RHYTHM (VOLUME)基8, 9, 11, 21
 rit.基21
 rit. (PAD)基30

S

SEQUENCER応3
 slower基30
 SOLO基20
 SONG SELECT応3
 START/RE-START基19
 STOP基21
 STOP (PAD)基26~28
 STYLE SELECT基17
 SUPER STYLE PLAY基24
 SUSTAIN基31, 応36
 SYNCHRO (PAD)基30
 SYNCHRO START基19

T

Tap Start基29
 TEMPO (PAD)基29
 Tempo Change基29
 Tempo I基29
 TO DISK応40
 TRANSPOSE/TUNE基14

V

VERSE 1基20
 VERSE 2基20
 VERSE A (SSP)基24
 VERSE B (SSP)基24
 VOICE PART基11
 VOICE REGISTRATION基15
 VOICE SELECT基11
 VOLUME基8, 9, 11, 21

YAMAHA
YAMAHA CORPORATION

ヤマハ株式会社
© 1992 Yamaha

VN83940 JCBAR1P01.3CP